



特 253

915

APJ

本

二冊 / 中 / 一

愛知縣私立青年學校協會報第三號

滿鮮北支教育視察報告書

愛知縣私立青年學校協會

始



特 253  
915

復 命 書

依命昭和十四年十月十六日ヨリ同十一月六日マデ滿鮮北支視察旅行仕

私共

候間報告書相添此段復命候也

昭和十四年十一月三十日



私立松坂屋青年學校長 菊地亮三郎

私立岡本青年學校長 野々垣一郎

私立太田青年學校長 太田鶴松

私立藤田製作所 榑原佐一郎

愛知縣私立青年學校協會長 工藤鐵太郎殿





# 報告書目次

一、序	言	一
二、日	程	一
三、日	誌 (視察事項併記)	六
四、滿洲國の教育		三〇
五、滿洲國の神社		三六
六、滿洲國の宗教		三七
七、參觀したる學校		三九
八、北支、本邦人教育施設概況		五〇
九、視察後の感想		五五

# 報告書

## 一、序 言

當協會本年度行事の一なる視察旅行中鮮滿北支の方面に當選せる我々一行四名は視察の日程並に準備等につき二三回集合打合せをなし種痘、チフス、コレラ等の豫防注射を行ひ縣長官の視察旅行證明並に各居住管轄警察署長の身分證明を受けたる後豫定通りの視察を無事遂行する事が出来た、次に其の梗概を記述する事とする。

元來當協會に於ける大陸視察の目的は東亞新建設の大使命を帯びたる皇國青年の指導の立場にある者は是非一度大陸の現状を視察して其の實感を深め置く必要ありとの趣旨によるもので所謂教育施設の視察と云ふが如き、ある限られたる任務を帯びて調査報告を主とするもので無く、東亞の現況を實際に見聞し皇軍偉跡の跡を偲び新秩序建設に邁進する彼我官民の姿に接し生きたる資料を魂の上に認得せんとするのであるから各校全部に行き渡らすを目的とすべく今回の一行は其の先發隊であつたに過ぎない、従つて概括的、一般的の視察であつて實感的に得たる精神的教訓は多大なるものあれど報告としては旅程の大要と感想の一端を記するに止める。

(菊池亮三郎)

## 二、日 程

日次	月日(曜)	發着驛	發時	着時	宿泊	視察箇所	其他
一	一〇、一六(月)	名古屋	後七、〇五	前八、〇〇	車中	サクラ	
二	一〇、一七(火)	下ノ岡	前一〇、三〇		船中	關釜輪船船徳壽丸に乗込む 海路波高く航行二時間にして引き返し碇泊、午後八時半に至り出發。	



三	一〇、一八(水)	釜山	釜山	前六、五〇	前五、三〇	京(三重旅館)	特急アカツキ(沿道朝鮮の風景を見る) 朝鮮神宮参拜、景福宮、總督府、昌徳宮 博文寺等自動車にて
四	一〇、一九(木)	京城	京城	前二、三〇	後二、〇〇	奉天(大丸旅館)	午前十一時安東驛にて約三十分停車 税關吏の所持品検査紙幣の交換安東神社 を車中に拜す沿道鐵道の跡著しきを見る 夜商店街視察 奉天中學校山浦教諭に面會
五	一〇、二〇(金)	奉天	奉天	後五、〇〇	後五、〇〇	同前	撫順見學 奉天發 前 九、三〇 撫順着 同一、〇〇 撫順大山坑、古城子露天柵、公園、記念 碑参拜、日露戰跡展望 撫順發 後 二、一五 奉天着 後 四時 奉天城内 夜、滿人教育の實驗談を聴く。
六	一〇、二一(土)					同前	奉天第一中學校視察、國民學校視察、奉 天北陵、北大營、柳塘橋、忠靈塔参拜、 國立博物館、天齋廟、同善堂、奉天神社 参拜、鐵西工場地帯、南住宅街、商店街 午前滿洲國教育の全貌に就き話を聴く。 亞細亞特急にて新京へ。
七	一〇、二二(日)	奉天	奉天	後二、一〇			

八	一〇、二三(月)	新京	新京			同前	忠靈塔参拜、新京神社参拜、南嶺寛城子 戰跡、新京新市街、宮邸、官衙、學校、 公園、運動場
九	一〇、二四(火)	新京城	新京城	後一、〇〇	後二、〇〇	哈爾濱(名古屋ホテル)	國務院、滿洲事情案内所、 滿洲國の現況説明を聴く。 飛行機ユシカース號に投乗、眼界を廣く して滿洲の野を展望しつ、哈爾濱まで飛 行。 鐵路總局、濱江省公署、 鐵路局警務署長岩田大佐に面會、滿洲國 治安狀況、移民團活動狀況を聴く。 民間の成功者遠藤氏の體験談を聴く。
一〇	一〇、二五(水)					同前	哈爾濱神社参拜、忠靈塔参拜、中央寺院 通、志士の碑、二烈士の碑、博物館、孔 子廟、教會堂、露人墓地、演樂寺、傅家 甸街、松花江、商店街、キタイスカヤ。
一一	一〇、二六(木)	哈爾濱	哈爾濱	前九、三〇 後一、四五	後五、〇〇	車中	伊藤公遺難三十週年記念日、時刻も恰も 同時刻九時に驛構内記念標前に黙禱を捧 げた。 特急亞細亞 一時下車、市内見學 承徳に向ふ。



一四	一〇、二九(日)	北 京	承 德	承 德	一三 一〇、二八(土)	一二 一〇、二七(金)
同 前	後一〇、〇〇 北 (日華ホテル) 京	後一〇、〇〇	後六、三〇	後六、三〇 (梅屋旅館) 德	午前六時徒歩にて驛へ、途中より自動車有名なる離宮、寺院等刺愛して乗車 北京まで一日唯一回のみ發車 沿道の眺、双頭山、遼河、塞門門、拉海溝蒙古風に沙塵煙の如きを見る。 牛、豚、羊の群、駱駝の群、白鶴の群。 後二時古北口に着、三十分停車 身分證明の提示、税關吏の調査あり。 萬里の長城、石匣、新通洲、小營、密雲懷柔、順義、何れも城壁に建設東亞新秩序の大字掲示 北京着、二時間餘の遅延、これは普通のことには屬す。 松坂屋店員の出迎あり。	午前六、三〇錦縣着、三十分停車 前八、一〇義縣 同八、三五金領寺 同九、三〇朝陽 後〇、三〇葉柏寺 同三、五〇平泉 驛より市旅館まで約一里、驢馬車にて滿月を浴びながら 防空演習の最中

二〇	一一、四(土)	大 連 港	承 奉 天	承 奉 天	一六 一〇、三一(火)	一五 一〇、三〇(月)
船 中	船 中	同 前	同 前	同 前	同 前	同 前
扶桑丸にて神戸へ 船中にて明治節奉祝 税關吏の輸入品調査	旅順戦跡を訪ふ。 表忠塔参拜、納骨堂、記念館、東雞冠山水師營、爾靈山、旅順要塞の全貌、博物館	大連神社参拜、忠靈塔参拜、大廣場、滿鐵本社、小松公園、星ヶ浦、露天市場、滿洲資源館、油房、碧山莊、大連埠頭。事業家、八島氏の三十年間の經營談を聴く。	大連神社参拜、忠靈塔参拜、大廣場、滿鐵本社、小松公園、星ヶ浦、露天市場、滿洲資源館、油房、碧山莊、大連埠頭。事業家、八島氏の三十年間の經營談を聴く。	大連神社参拜、忠靈塔参拜、大廣場、滿鐵本社、小松公園、星ヶ浦、露天市場、滿洲資源館、油房、碧山莊、大連埠頭。事業家、八島氏の三十年間の經營談を聴く。	大連神社参拜、忠靈塔参拜、大廣場、滿鐵本社、小松公園、星ヶ浦、露天市場、滿洲資源館、油房、碧山莊、大連埠頭。事業家、八島氏の三十年間の經營談を聴く。	大連神社参拜、忠靈塔参拜、大廣場、滿鐵本社、小松公園、星ヶ浦、露天市場、滿洲資源館、油房、碧山莊、大連埠頭。事業家、八島氏の三十年間の經營談を聴く。



二二	一一、五(日)	門司港	前八、〇〇	船中	前八、〇〇門司着、上陸 メカリ神社参拜、壇ノ浦 瀬戸内海
二二	一一、六(月)	神戶港 三宮 名古屋	後一、〇〇 前九、二〇	船中	熱田神宮、護國神社参拜 縣廳へ歸朝挨拶、午後四時解散

三、日誌 (視察事項併記)

1、出發

十月十六日(月) 雨  
午後二時一同愛知縣廳に参會、種々打合せの後關係各位に挨拶して退廳、それより連れ立ちて熱田神宮、護國神社に参拜し五時半名驛構内にて晚餐を共にし午後七時五分名驛發特急さくらに乘車して西に向つた、多數見送りの方々に感謝の挨拶を交はし乍ら。

附記 特に同行を希望した松坂屋青年學校指導員中川宗吉氏を一行了解の下に行を共にする事とした。  
十月十七日(火) 晴

午前八時下之關に着、同十時三十分關釜聯絡船德壽丸に乗船釜山に向ふ、空晴れたるも濤高く船客中船酔ひの者續出の有様にて航行二時間にして引返し半日を碇泊船中に送り午後九時に至り漸く發船した。

2、朝鮮より奉天まで

十月十八日(水) 晴後雨

午前十時半釜山に上陸した、一衣帯水の地なれども風景自づから内地と異なるを覺ゆ、埠頭附近の遺蹟一時間餘にして午

前六時五十分釜山發急行あかつきにて京城へ向つた、車窓より眺むる沿道の景、山は秃げ、土地瘦せ、民家は殆んど蕪葺の矮屋、ポプラと松とが所々に寂しく見える、牛追ふ農夫、頭部に物載せて道急ぐ婦女、今は秋の收穫時なるも稀なる旱害のため草根木皮に飢を凌ぎ居る者も尠ならずと車中の噂さ、忠清道に入りて豊かに稔れる田の續けるを見る、大田驛に着きし頃瓦葺の民屋を見受けた、天安附近より再び旱害の慘憺たるを見る、日清の古戰場等幼時の記憶を蘇へらせながら京城に着いたのは午後二時、三重旅館に落付いて間も無く自動車を驅りて市内見學をした、朝釜山出發の折は日本晴れの好天氣であつたが京城は降雨の最中であつた。

先づ官幣大社朝鮮神宮を参拜した、神宮は朝鮮全土の守護神として天照皇大神、明治天皇の二柱を祭神とし官民崇敬の的となつて居る、社殿は清楚なる神明造り、五ヶ年半を費して大正十四年竣工した、外苑は元の漢陽公園、京城市街を始め漢江の艇々たる流を一眸の裡に收められる、裏参道は櫻多き南山公園に續き、附近には文祿年中豊臣秀吉征韓の役に於ける増田長盛、大谷義隆等の陣地の跡がある。

宮司阿知和氏は愛知縣知多郡の人、刺を通じて面會を求めたるに昨日大祭執行されたる後なるにも關はらず快よく數十分に亙る會談を許され茶菓の饗應の上熱情を籠めて朝鮮に於ける精神教化の経過を話された、幾代かに亙れる李朝酷吏の苛斂誅求に惱める鮮民は自暴自棄の結果唯目前の偷安を貪りて何等進取の氣象なく従つて正しき信仰心等は地を拂ひ山は秃げ田畑は荒るるに任せ佛寺は料亭と化する有様であつたが我國統治の下に銳意教化を計り來れる結果漸次面目を改め來り植林事業より農事の改良等著しきものありが殊に最近に至り日本國民なりとの自覺起り敬神の思想頗る加はり來りたるは注目し値するものがある、今回の祭事に於ても彼等の奉仕的態度は實に神妙なるものであつた。近來彼等の發起にて神社を建立せるもの六十個所に及ぶ、これが朝鮮神宮建立當時の唯見物に參集せる鮮人とは今や思想的に非常なる變化がある、内鮮融和の實を擧げるに敬神思想の普及は極めて大切であり教育の中心も茲にあらねばならぬと思ふ云々、時間の都合上匆々に拜謝して再び乘車し雨煙る中を走らして景福宮、博物館、總督府、博文寺等の輪換を傍觀して宿に歸つた。

十月十九日(木) 曇後晴

午前二時半京城發急行にて奉天に向つた、同十一時新義州驛に着、税關吏來りて所持金の多寡等尋ね、安東驛にて三十分の停車中所持品の調査等あつたが極めて簡單なものであつた、但し不審と思はるるものに對しては相當厳しく尋問の様様で



あつた、驛近くに安東神社の石の鳥居の新しきを拜す。國境を越ゆれば風物何時しか滿洲らしき氣分を覺えた。朝鮮服と牛のみであつたのが滿洲服と小馬の糞で引かれ行くを見た。樹木渺なき山の續きと地膚あらはの原野とは同様にて畑の廣袤次第に増し来るを覺ゆ、汽車は快速度にて走り行けど窓外の景は更に改まらず、行けども唯々しき原野の所々にポプラ柳、疎松の斑らに立ちて鳥の群るを見るのみ、畑には時に滿洲煙草の花盛りかを見ることがあつた。朝鮮沿道の民屋は何れも藁葺きの假小屋なるに滿洲に入りてよりは次第に祖雜な土造、棟瓦作りとなり露人の經營にかかる規模の大なる工場等も見えた。沿道に見ゆる人家は極めて疎にして數十町の間一二を數ふるが常であつた、人家の稍續くところ必ず柳立ち青菜見え而して仁丹と若菜との廣告の隅々まで行届いて居るには驚いた。愛林綠化の標語が所々に立つて居る、汽車内には殆んど支那人で滿たされて居る洋裝、國防色等で一見内地人との區別わかねども對話によりて夫れと知られる。

蘇家屯驛に着いたのは午後四時四十分、沙河の古戰場近く滿洲軍第四軍司令部記念塔が見えた。

奉天に着したのは午後五時、驛前大丸旅館に投宿した、夜食後市内商店街の様子を見た、驛前より幾筋かに分る千代田通り、浪華通り、平安通り等の大通りを始め松島町、春日町、葵町、萩町、櫻町、銀座街等殆んど日本内地の町名を附しあれば他所と思へぬ親しみを感じた、膚に沁む一種乾きたる感じの寒さは流石に滿洲と思はれた。

### 3、撫順及奉天の一部

十月二十日(木) 晴 天

今日は撫順を視察した、撫順は云ふ迄も無く以前露人の經營せるを日露の役にて占領したものである。

奉天から五十六軒、汽車で一時間半を要する、東西二十軒、南北六軒、人口二十三萬、内地人は約三萬、鮮人其他にて一萬、残り十九萬は皆滿人である。撫順は世界有数の石炭産地で露天掘と云ふので有名である。埋藏量約十億噸、出炭量一日約三萬噸、年産約一千萬噸に及ぶ、採炭以外に發電所、製油、製鐵、電車、水道、瓦斯等の事業あり、琥珀細工、石炭細工、撫順臺榭等が此處の名物と云はれる。學校としては日本内地人の教育のもの中學校、女學校、工業學校、小學校、幼稚園等皆完備し居り、半島人教育の普通學校一、滿人教育の學校二十餘校ある。撫順の労働者は八萬人此の内五萬人は炭礦に働いて居る。當地は炭礦と聞きたるのみにては想像されぬ觀賞の地で毎年の觀光客六萬を數へ全滿洲に於て第四位であるとのこと、將來の發展性が想像される。中に就て永安公園は特に風光明媚である、其の小高き丘を譽が丘と稱し日露の役の

古戰場で表忠塔が立つて居る、我等は茲に參拜し案内者の熱誠ある説明に感涙を催し渾河を隔て眼前に展開さるる古戰場に當時の面影を偲んだ、午後四時奉天に歸り城内の一部を見學した、夜に入り舊知奉天中學の山浦教諭を訪ひ滿人教育に関する實際談を聴く、滿洲開發に関する滿鐵會社の功績と後藤子爵の計畫並に手腕の非凡であつたこと、續いて兒玉將軍、大山元帥等を聯想して感慨は次第に深くなつた。さて滿人に通ずる性情はと云へば現實的であり利己的である、平然として僞りを云ひ決して之を罪惡と思はぬ、師弟の關係は凡そ學校だけに限られ卒業後利害の關係を離れると全く路傍の人となる、昨年卒業したるものは職業の先きをも特に世話し面倒を見たる爲か非常に感謝の意を表し珍らしく記念品等を寄せ呉れたり、かかる事は前例無き事にて非常に頼母しく將來を囑望して居たのであるが一年を経た今日では途中に逢ふも挨拶だにせぬ云々、傳統的の性格は一朝一夕に改むべきにあらず之が教育指導は容易の事にあらず等考へさせらるるもの非常に多かつた。

### 4、奉 天

十月廿一日(土) 晴

奉天第一中學校を參觀、次いで奉天市公立新高國民學校を參觀し、滿人兒童に日本語教育の實際を見た、語學に天才的の彼等は初年級ながらも「ようおいでになりました」「お歸りなさいませ」等一齊に我等に挨拶した、學校教育に關しては後文に詳記する事として茲に略す。

奉天は遠く渤海の時代より續いた古き歴史を有して居るが近くは三百五十年前清の太祖愛親覺羅の都にて盛京と呼んだ東洋史上目抜きのある所である。殊に我國史上劃期的の記録である日露戦役の最後の決戦地であり更に續いて滿洲事變より新興滿洲國誕生後まで搖籃の地でもあるから奉天の周圍は我等皇國民にとり凡て感激の叢園である。市域二百七十平方軒、人口七十餘萬、此の内日本人十餘萬、滿人六十餘萬と稱せられて居る。

我等一行の參拜したる、又見學したる主なる箇所を略記すれば

イ、忠靈塔 千代田通りにあり皇軍將兵三萬五千の英靈が祀られて居る。

ロ、奉天神社 春日公園の東に接し天照大神、明治大帝の御二柱が合祀されて春秋二回の例祭が行はれる。

ハ、北陵 奉天城内の西北約一里、清の太宗の寢陵である。

ニ、奉天城 明治三十九年三月十日世界戦史を飾る日露の大戦に於て大山大將を總司令とする皇軍が威風堂々と乗り込ん



だ南大門は感激殊に深し。

ホ、北大營 會て張學良麾下の精銳が駐屯したる處昭和六年九月十八日午後十時三十分柳條溝鐵道爆破と共に我獨立守備隊の爲に撃破され滿洲事變の導火線となつた所で記念塔が立つて居る。

へ、北塔 今より約三百年前奉天城を中心として東西南北に都城鎮護の護國寺塔として建てられた喇嘛塔の一である、法輪寺と云ふ。

ト、同善堂 清の光緒七年(今より五十七年前)時の名將左寶貴氏が私財を投じて創始せる社會救濟事業の一施設である。初め天然痘に罹る者の夥ただしきる救濟せんとして防疫施設を試みたのであるが續いて育嬰所、養老所を開設し爾來施醫所、幼稚園、小學校、女子實業學校、教養學校、習藝學校、醫科專門學校を設立し亦接生(産婆)傳習所を置き通信機關としては民報社等を設け更に木工、印刷、毛氈、裁縫、其他の工藝教養工廠を設置し收容者に對する普通教育より授産授業の教養に努め、靈櫃の保管より供養法會の營みにまで及んで居る。本堂は左寶貴氏の徳望により基本財産二百萬圓を有し其の果實を以て事業經營の資に充當し自給自足他に類例なき好條件を有するものであつたが舊東北軍閥の支配に移りてより基本財産の大部分は彼等に襲断せられ事業漸を追つて逆境に陥り醫專、女子實業の兩校を始め各教養工廠も閉鎖の止むなきに至り滿洲事變直前に於ては僅かに育兒、養老の消極的救濟の繼續に過ぎなかつたのを事變後本庄關東軍司令官が板垣參謀長を伴ひて本堂を巡視し大いに左寶貴氏の事蹟に共鳴し授産助成金として多額の寄附を申出られ爾來再び活氣を呈し康徳三年七月財團法人に改組せられ劃期的革新を見るに至つたのである。本堂の經費豫算は年額約六十萬圓で其の及ぶ所奉天市内を始め瀋陽、遼陽、遼中、彰武、興京其他各縣下に亘り、基本財産として約二百萬圓の土地家屋を有し、之が貸下収入を始め靈櫃保管料其他に依る、茲に本堂の一名所なる救世門の事を附記して置く。救世門とは捨子を受取る門である、門の一隅に捨子を受取る窓があつて道路に面して居る。深夜人目を忍んで窮境に愛兒を捨てんとするもの此の窓口より子供を入れると係員詰所のベルが鳴る様に裝置がしてあるのである。毎年茲に救はるるもの八九十名を算する由、因みに本堂創始者左寶貴氏は日清戰爭の當時平壤に於て皇軍と戦ひ力戰奮闘終に六十一歳を一期として壯烈なる戦死を遂げ我將士の手により其の戰場に次の如き表忠碑を建てられた人である。

勇冠三軍 忠顯千古

明治二十七年九月十五日

日本陸軍大佐 水野芳毅建之

チ、國立博物館 古代文化、支那文化を一堂に聚めた世界に誇るものと云はれて居る、館はもと熱河の阿片王と謳はれた舊東北軍閥の巨頭湯玉麟の私邸である、贅美を盡した白壁の三層樓は當年の豪華を偲ばれるが更に其の陳列せられた珍寶三千五百餘點の目も絢なるに驚かされた。

リ、天齋廟 漢の平帝時代の建立で大東關堂子廟にあつたのを今より三百餘年前に現在の所に移したもので本名を東嶽廟と云つて居る、孔子の教義にある勸善懲惡の方便として教育程度低き一般民衆に因果應報の道理を地獄極樂の人形にて知らしめんと創作せるもの、精巧美麗を極めて見える、毎年舊三月廿八日の本祭には非常な賑ひを呈するとの事である。

ヌ、天壇 清の太宗皇帝即位の時、茲に壇を設けて天に告げられたる所、其の後出征に際しては戎衣の將卒を壇下に集めて香を焚き生贄を供へて武運長久を天に祈られた、建設巧妙にて此の世にて言葉を發すれば天ともなく地ともなく木靈となつて返り來るのである。

ル、鐵西工業區 滿洲工業を促進するため康徳二年(昭和十年)四百二十萬坪に亘る尅大なる地區を工業區と設定東洋のマンチエスターとして發足し大工場の建設は今や着々と歩を進めて居る。

## 5、新 京

十月二十二日(日) 晴後曇り

午前滿洲國の教育に就いて聞いたがそれは纏めて後に記載する。午後二時十分奉天發特急亞細亞にて新京に向つた。沿道の風景廣漠の感のみ、同五時半新京に着し、新京ホテルに投宿。

十月二十三日(月) 晴

市内の見學をなす。

新京は元長春と稱し微々たる一小邑に過ぎざりしが帝政露國が寛城子に停車場を設置するに及び經濟的價値を認められ人口六七萬を算するに至り日露戦役後日本側に於て城内、寛城子間の荒原を買収し遂に今日の如く殷盛な舊滿鐵附屬地を造り



上げたのである。一方支那側に商埠地を設定し、舊城内、商埠地、及滿鐵附屬地の三つを以て今日の市街を形成するに至つた。昭和七年三月滿洲の國都を長春に奠め名を新京と改めてより茲に國都大新京の建設事業が始まり今や世界の國都史上類例無き超速度を以て劃期的大事業が進められて居る。現在の人口三十八萬内日本人は九萬余、建國當初總人口十三萬に比して二十五萬の増加、三倍の比率になつて居る。

参拜、視察の主なる箇所

イ、新京神社 大正元年御大典記念事業として造營されたもの、天照大神、大國主命、明治天皇の三柱の神を祭る、兒玉公園に近く中央通りに面して鎮座す。

ロ、忠靈塔 忠勇なる皇軍將兵故武藤元帥を初め二千九百余柱を奉祀してある、塔の高さ三十五米餘、北安路と康平街の角にある。

ハ、寛城子、南嶺、何れも滿洲事變に於て皇軍苦戰の戰跡にて記念碑に忠魂の宿れるを拜す。

ニ、宮廷府 御門扉には菊花の御紋章が燦然と輝いて居る、附近の舊國務院は日滿議定書の調印其の他何れも茲に行はれた建國史上由緒深き建物である。

ホ、宮廷造營豫定地 十余萬坪の廣大な地域でその一隅に土を盛り上げ木造の標識が立つて居る、天壇と稱し康徳三年三月一日滿洲國皇帝陛下御即位の御儀を擧げさせ玉うた所である。

ヘ、國務院 滿洲國中央政府の本據で總ての政治が茲から流れ出るのである。

ト、大同廣場 新市街建設第一に着手したもので其の周圍に新京特別市公署、香都警察廳、滿洲電信電話會社、中央銀行等の大建築が並んで居る、市政及び經濟の中心地となる所である。

チ、兒玉公園 兒玉大將を永遠に記念すべく設けられたもので大將乘馬姿の銅像が入り口近く立つて居る、面積約十五萬坪。

リ、關東軍司令部 兒玉公園の南に儼然として控へて居る、東洋平和確保の大號令はここから發せられるのである。

滿洲國首府として第一期計畫漸く終り第二期第三期と進み伸び行く大新京の姿は深々たる春の海の如き感じがする、新期設計の大公園、大運動場等を巡視しつつ其の面積を開けば五十萬坪、七十萬坪、道路の幅員百米、二百米と何事も大陸的な

るに驚かされる。

## 6、哈爾濱

十月二十四日(月) 晴

午前滿洲事情案内所を訪ひ親しく滿洲國の現況に就きて聴取し、國務院民生部を訪ひて文教に關する説明を聴いた、詳細は後文に譲る。

午後一時飛行機エンジン號に塔乘廣裘果て無き滿洲平野の開墾され行く姿を眺めつつ午後二時哈爾濱に着した。投宿せる名古屋ホテルの經營者遠藤志貴太郎氏は愛知縣大濱町の人、日露役の直後明治三十九年三十四歳の時單身パリカン一挺を提げて渡滿理髮業に身を起し不屈不撓三十余年數百萬の財を作りて今や滿洲國經濟開發の第一線に立ち幾百千の渡滿邦人の便宜を計り七十歳の老驥と見えぬ元氣さである。我等一行の投宿早々鄭重なる歡迎會を同氏經營の大料亭武藏屋に開いて招待を受けた。宴席上一御主人の體驗上今日の青年に要求せらるるものあらば我等教育の立場にある者の参考のために一と懇望すれば遠藤氏即座に答へて大いにあります。「第一は健康、第二は正直、第三は自己を作り行く事を樂しむ」この三ヶ條は鐵則である。健康の大切なることは申すまでも無いが正直の必要なることは成功の秘訣と申してよい、人の信用を受くるで無ければ決して大なる仕事は出來ない、信用の基は人間の正直さである。次に如何なる境遇に立つても自己を作り上げる事を樂しむとすれば艱難も甘受することが出來る。滿洲國開發を念とする我邦人は是非此に留意されたい云々。歡談數時間に於て辭去、哈爾濱の夜景を見學した。

哈爾濱は今より四十年前ロシア人の手により建設されるまで松花江岸の名も無き漁村であつた、然るにロシアが滿洲侵略の策源地として技を擧げ首府モスコイを模し東洋のモスコイを目標として都市計畫を布いたのだから規模雄大壯重華麗である。大正六年のロシア革命までは哈爾濱は名實共に露西亞人の哈爾濱であつて日支兩國共に一手も染むることが出來なかつたのである。露西亞革命後其の勢力の減退に伴ひ支那官憲が頻りに權益の奪回を企て漸次行政權を手に收め露西亞は東支鐵道の經營のみに専念するに至つた。滿洲事變後日本の北滿に對する勢力の伸張と反比例して露西亞の勢力衰退し東支鐵道を滿洲國に賣却して全面的に滿洲から引上げたのである。哈爾濱の市街は新市街。キタイスカヤ、傳家甸の三區に大別され人口四十七萬、奉天に次ぐ滿洲第二の大都市で日本人約三萬五千、半島人五千、白系露人三萬、その他の外人五千、二十余



ケ國の人が生活して居る有名な國際都市で北滿洲の政治、經濟、文化の中心都市である、従つて街の様子が何處となく内地は勿論一般滿洲の他の都市に見られぬ歐羅巴臭味を有して居る。

十月廿五日(火) 晴

滿洲の寒さを豫想し防寒服裝でやつて来た者の張合ひ無き程の陽氣であつた。滿洲に入りてより奉天にては稍寒さを感じたるも豫想程でなく三寒四温と稱せらるる滿洲時候の四温に入りたる日なれば比較的暖かきも三日経て三寒に入ればなかく厳びしいとの事であつたが左したる事も無く新京に入りても長春の舊名を憶はしむる程であつたが哈爾濱こそはとも我も思ひしに外套の不用を感じる暖かさであつた。十月以後翌年三月頃までは晴天を常とし氣象臺の天氣豫報も晴天を報じて居れば間違ひ無しと彼地の案内者が談つた。

見學せる主要の所を略述すれば

イ、哈爾濱驛

ハルビンの大支關であると同時に歐米連絡の基點である。伊藤博文公遭難の場所、本驛プラットホームに鐵柵圍の標幟を以て英傑最後の地を示して居る、傍に同公の胸像が當年の佛を偲ばせて居る。

ロ、濱江省公署 濱江省行政の總府である。

ハ、哈爾濱神社 在留邦人の淨財により昭和十年に建立された、目下假神殿であるが、將來忠靈塔附近に神域を卜し本建築の上遷座の豫定と聞く。

ニ、博物館 滿蒙を科學的に認識するために必要な資料は悉く陳列されて居る、商工部、醫學部、生物學部、人類部の四部に分たれて居る。

ホ、中央寺院

ニコライフスキー、サポールと云ひ露國人の寺院である。舊露西亞人と寺院は宛も日本人と神社の關係の

如く離るべからざるもので、彼等の殖民の最初の事業は寺院の建立であつた。市内隨所に見る露西亞寺院は彼等の當時の繁榮を物語ると同時に宗教心の熱烈さを想像する事が出来る。其の墓地は廣大なる菜城、亭々たる綠樹、閑寂、清澄而して墓前には必らず家族休憩の臺が設けられて参拜者がゆつくりと故人の前に慰安的談話を交はさるる様になつて居る、如何にも外國發展の先驅者達の安らかなる眠りの地に相應はしい感じがした。

ヘ、孔子廟 滿洲に於ける孔子廟中最大且つ最も輪奐の美を極めたものと云はれて居る。民國十五年時の本省特別區長官

張煥相氏の建立にて當時ノ聯革命後共産的物質思想の侵入を排撃し東洋古來の道德を尊重するため此の廟を設けたのである。

ト、極樂寺、滿洲第一の大寺院で其の壯麗孔子廟と伯仲して居ると云はれる。

チ、忠靈塔 日露戰役、シベリヤ出兵、滿洲事變等に於て陣歿せる忠勇なる我軍民三千四百六十六柱を合祀せるもの、塔の高さ六十七米、廣き曠野に屹然と聳えて見える。

リ、志士の碑 日露大戦を飾る悲壯なるエピソードとして人口に膾炙せらるる横川、沖兩氏が敵手のため刑場の露と消えた遺跡に建てられたもので同志であつて共に殉難した六烈士の英靈を合祀してある。

ス、小林、向後二烈士の碑 六烈士は民間代表的志士で二烈士は軍を代表する烈士であつた。

ル、道裡公園 埠頭區内最大の公園である、埠頭區は露西亞人ハプリスタンと呼び滿人は道裡と呼ぶ所謂ハルビンの下町で繁華な商業區域である。

ヲ、キタイスカヤ、ロシア人商業界の中心地でロシア獨特の濃厚なる建物林立し、石疊みの舗道には散策の歐人が輕快な歩を運び凡て東洋色から懸け離れた寒氣は特殊な印象を旅行者に與へる。

ワ、松花江 キタイスカヤの北端に洋々として流るる大河で露西亞人は之をスングアリと呼んで居る、本江は上流を右折して長白山脈に、左折して小興安嶺に享け、下流は滿ソ國境を劃する黒龍江に合流して居る哈爾濱は松花江の内懐に抱かれて生誕し、育まれて今日の大をなしたので松花江は哈爾濱の生みの親である、鐵道建設前は北滿唯一の交通路にして對露貿易の幹線であつた。現在でも二千噸級の汽船が巨姿を浮べて貨客の輸送に黒煙を上げて居る。

カ、傳家甸 俗に濱江又は道外と呼ばれとも漁戸の散在する沼池なりしを傳姓の支那人が旅宿兼飲食店を經營し附近の漁民の聚樂場たらしめんに名稱づけられたものなれど今や人口十八萬、滿人は全市人口の三分の一強を占め滿人市街として文化の發達せることと繁華なることとは全滿第一と稱せられる。

十月廿六日(水) 晴

午前九時半急行亞細亞にて哈爾濱驛を發車した。本日は恰も伊藤公遭難三十週年の當日に當り時刻も同じ午前九時半、偶然とは云へ感慨の一層深きものがあつた。追悼の記念式場を眼前にして哈爾濱と別れを告ぐる利那謹んで黙禱を捧げ公生前



の偉動を追憶した。

午後五時奉天驛に下車して商店市街の見學をなし同十一時四十分發にて承德經由北京に向つた。

### 7、熱河線

十月廿七日(木) 晴

午前六時半錦縣に着いた。

錦縣は遠く虞夏時代に起源した古都で數千年間遼西の文化的、經濟的中心地として開き現在は内蒙古方面に對する貿易の中樞地として最大市場をなして居る。又滿洲事變の際には錦縣攻撃にて世界的に知られて居る、奉天より北支旅行のコースは

一、奉天——錦縣——山海關經由

二、奉天——錦縣——承德——古北口經由

の二つあり、我等一行も當初は奉天、山海關經由にて往復の豫定なりしも承德、北京間の鐵道も開通し居ること故往路を承德廻りとして熱河の方面も沿道の瞥見を目的として中途コースを変更したのである。

阜新炭坑との分岐點義縣、北票炭坑との分岐點金嶺寺、熱河省第一の羊毛、羊皮の市場たる赤峰への分岐點葉柏樹等を経て承德に着したのは午後六時半であつた。熱河の滿月を背に浴びながら馬車に揺らるる三十余町、風物總べて異郷の感深き蒙市の市にて純日本式なる梅屋旅館に投宿した。時恰も防空演習の最中にて外は晴れたる月夜なれど完全なる消燈にて外出も出來ず、折角の承德泊りも視察に代ふるに聽取を以てするの止むを得ざりしは遺憾であつた。

承德は世界の秘境と云はれる熱河の中心をなし北京や奉天と共に美術の都として東洋の大觀光地と稱せられて居る。由來熱河は熱民急叛と稱せられた難治の處で清朝が銳意統治に力を注ぎ離宮を造營し、又蒙古懷柔の方策として喇嘛廟を修營したのであるが、其の避暑山莊並に各廟は實に絢爛豪華を極めたもので滿洲事變前後心なき兵匪の破壊する所となり廢墟同然に化したりと稱せらるるも猶藝文愛好の徒を欣ばしむるに十分である。大佛寺にある七丈二尺の大佛を見るのみにても驚歎に値するとの事である。熱河と稱するは元來此の離宮の避暑山莊の中に在る池を源とする細流の名で武烈河と云ふ深河の支流に合して居る、深河下りは日本の保津川下りと同様に奇巖怪石の間を流下する舟遊びとして古來有名である。

十月廿八日(金) 晴

豫定日時の都合上承德の觀光を割愛したのは賣の山に入り乍ら手を空しくして歸るの思ひがした、奉天、承德間には直通列車あれど承德、北京間は假營業中のため承德で乗換へとなるのであるが承德、北京間は一日唯一回の運轉にて然かも難工事の下になれる鐵道にて途中故障の爲に延着となるは珍しからず、我等一行も午前八時承德發、北京着午後八時の豫定なりしも二時間余の延着となつた。二日間に亘る熱河の旅は眞に文字通りの汽車旅行であつたが沿道の展望に依つて得たる印象的收穫だけは確にあつた。百聞は實に一見に如かずである。連亘せる蒙古式の大山脈、所々に大巖石の或は棒錘の形をなせる二百呎の棒錘山、或は男女兩頭の形をなせる双頭山、山腹に兀として聳立する大喇嘛塔、深河の兩岸に沿へる椋千町の沙原に起る砂塵は濛々として煙の如く、高原に遊ぶ豚の群、羊の群、幾十幾百となく奔放自在なる別天地、或は鶴の群り駱駝の隊商、耳輪つけたる少女等今次の旅中熱河ならでは見られぬものであつた。車中にて聞きたる談片の一二を擧ぐれば現在熱河に大凡四百五十萬の人口あるが蒙古人は五六十萬に過ぎず、往時は蒙古人遊牧の地として好適地であつたが清朝時代より漢民の入境するもの増加し地を耕し、商工を營み古來の趣きを變へて來た。舊軍閥時代に匪賊の横行、苛徵誅求に至らざる無く人民疲弊の極に達したのであるが滿洲帝國創始以來、省域も鮮かに區劃され埋もれた熱河の寶が之から次第に顯はれ様として居る。事實熱河は「熱河を歩めば草鞋の裏に砂金が附く」と云はれる程に埋もれた寶は計り難きものがある。既に知られた金礦は百五十余ヶ所、炭礦は百六十余ヶ所其他銀礦、銅鐵礦、石油礦等がある。農牧地は實に廣く穀物、家畜、毛皮の産出多く工業として阿片、穀粉、煙草の製造が盛に行はれて居る。唯これ等の寶が從來余り世に出なかつたのは交通の不便と設備の不完備とに原因して居た、交通機關と文化施設とが完備される將來が刮目される。

列車中に北京小學校生徒引率の修學旅行團が見えたので早速その車内を訪ひ引率主任の先生に面會し刺を通じて教育の實地感想談を聞いた。先生は兵庫縣の人現在半島人の北京在住者の子弟教育に當つて居られ今其の學校の上級生百名計り引率して承德方面を見學しての歸途であつた。日本内地と異なり義務制があるわけでないから年輪も區々で尋常六年生であるけれど十七八歳の者も數名混つて居るとの事であつた。父兄は何れも半島人中産階級のあるもので滿洲方面から移つて來た者が多い。我々は日本人だと云ふので事變以來非常に幅をきかして居り支那人に悪感を與へることが相當にある。彼等の語學



の上達するには全く驚かされる。北支人は教育の差等が甚しく十中の八は無學であつて夫等の多くは創造的頭腦殆んどなく利己主義に徹底して居り虚偽を云ふこと日常の茶飲事である。彼等と提携して新東亞建設を計るは容易ならぬ事であり我日本人の重大覚悟を要する云々。彼等生徒の車内はなかく喧嘩を極め時々愛國行進曲の合唱が響いた。

國境古北口は八達嶺と共に萬里の長城を見るに絶好の地である。茲にて税關検査、身分證明、豫防注射證明等の檢閲があつた。

萬里の長城は春秋時代に始まり戰國時代盛んに築造され爾來増築、改修を重ねて明の時代に現在見るが如き壯大の長城が出来たのであるが秦の始皇帝が最も大掛りに建造したので長城と何時も聯想される因縁となつた。古來支那は都市を城壁を以て圍むを常とし村落も個人の住宅も周圍に土牆、陶壁を廻らして外敵侵入を妨ぐと云ふ特殊な習俗があり、此れが擴大されて國を守る障壁となり以て滿洲、蒙古の外敵を防禦したのであつた。此の一事より見るも支那本國と滿洲、蒙古との區別が歴史的に明かである。我國に於て城と云へば天主閣の如き樓閣を想見するが支那に在りては此の城壁こそ眞の城であるので奉天城、北京城等稱するもの皆それである。城内と云へば此の城壁内の市街を稱するのである、現存の長城は山海關附近龍頭より支那、滿洲の國境に沿ひ蜿蜒六百里に亘る、長城の道路と會する所それ／＼關門あり、山海關、八達嶺、古北口等が夫である。

古北口に着したのは午後二時で茲にて約三十分の停車、これから北支である。車内には食堂の設備も無く驛に驛辨の賣る所なく、あやしげなる大福餅にて裹食を濟した。石匣、小營、密雲、懷柔等の各驛通過の折遙かに見ゆる城壁に白く大きく「建設東亞新秩序」と記されてあつた。午後六時半大陸の夕焼を見た。それより一つの燈火だに見ぬ暗黒の廣野をひた走りに走り新通州を過ぎ北京に着いたのは午後十時過ぎ、構内には松坂屋出張所店員諸君の店旗を以て迎ふるあり、下車後直ちに自動車にて日華ホテルに案内せられ投宿す。

## 8、北 京

十月廿九日(土) 晴

今日は北京の見學である。

北京の名稱は明の時代からであるが遼、金、元より引續きでの首都で其の沿革は遠く三千年前の周代に始まつて居る。か

かる歴史に洗練された文化の都北京は東亞の何處にも其の比を見ざる佛蘭西の巴里と東西相對稱せらるる觀光都市である。唐、虞の時代には幽都、遼の時代に燕京と稱した。當時の城壁は周圍六十支里に及び十一の城門を有し南寄りに皇居と禁苑とを設けた、設計はアラビヤ人の手でなされてので現在の北京内城の大部分がそれである。北京市内各巷の名稱に附されて居る「胡同」の名は當時使用された蒙古名の名残で、伊太利人マルコポーロの旅行記に「カムバリツター(汗の都)」とあるは當市を指したのである。明はこゝに都すること二百二十餘年、清朝世祖滿洲より遷都して二百七十年、就中康熙、雍正、乾隆時代には此の都を中心として東洋文化の黄金時代を作つた。其の後打續く内亂、外寇のため漸次衰へ特に北清事變を轉期として急激に凋落し、民主國に變革されて中華民國となつてからも引續き十數年の首都であつた。

民國十七年國民革命軍の北伐完成と共に此の地を北平と改め首都が南京に遷されると共に從來の中央政府及各附屬の政治行政機關を彼地に移轉した。民國二十二年四月皇軍の熱河戰開始と共に南方要人等の垂延せる紫禁城内の寶物に至るまで南遷せられ同二十四年秋には北京圖書館はじめ諸大學、諸調査機關等にあつた貴重文獻資料も南遷されたが數千年に亘る文化都市としての面目は依然その儘残つて居る。昭和十二年七月支那事變發生後皇軍の入城により城内の治安は確保され、八月末北京治安維持會の設立を見たが十月三日には北平を北京の舊稱に改め、十二月十四日臨時政府の成立によつて觀光都市たるのみならず政治都市としての脚光を再び浴びるに至つた。

市街は内城と外城とよりなり内城に約千八百、外城に約千四百の街巷があり、内城には主として官衙、住宅街、外城は商業區となつて居る。人口は中國人約百五十萬、外國人千六百、邦人三萬を稱し邦人の増加率は飛躍的に増加して居る。

見學せる主なる場所

イ、日本大使館

明治四十二年の新築で舊肅親王府の舊跡である。明治三十三年義和團の事變に日本軍の鎮城した處、大使官邸の樹木には當時の彈痕を止めて居る。大正十三年馮玉祥のクーデターに會つて紫禁城を脱出せられた宣統帝は暫し此の構内に起居せられた。

ロ、紫 禁 城

天上の紫微星が天帝の居座に當ると云ふ思想より名づけられたる紫禁城は明、清兩朝五百餘年に亘り四百餘州に號令した



當時の勢威は今に髣髴せしむる偉容を十分に示して居る。城の周圍は三、五軒、内廷、外朝の二つに分れ、内廷は紫禁城の北半部で帝后の日常生活を送られた處である。今は故宮博物院として開放され一般の觀覽を許して居る。外朝は紫禁城南半の一廓で主として天子の朝儀の行はれた處である。正門を午門と稱し世界最大の門として知られ東西に東華、西華の兩門がある。午門の北に五座の金水橋あり、之を渡れば一對の銅獅を前にして其壇の上に太和門あり、門を入りて遙かに高く三層の白石基壇の上に太和、中和、保和の三大殿がある、太和殿は中華に君臨した天子の正朝で中央稍奥まりたる部に寶座を設け其の上に斧鉞を畫いた王座を置いてある。元旦、冬至、萬壽の三大節並に國家的大慶典のある時天子君臨して賀を受けられた處で殿前階の左右には十八個の寶鼎を設け之を昇つた月臺の上に銅龜、銅鶴と共に東に日昇、西に嘉量を配してある、即ち天子は民に正しき時と正しき量器とを授くるを以て施政の要諦とし、命を奉ぜざるものは斧鉞を加ふる意を表徴したものである。中和殿は天子が太和殿の出御に先立ち扈從の大官侍衛等の行禮を受けられた處、保和殿は毎歲除夜に外藩を饗宴し又科擧の際試験を行はれた處である。三大殿の東にある文華殿は天子が春秋の經筵を行はれた處、その東に隣る傳心殿は先師の神位を奉祀した處、其の東方の國史館は清朝時代の史實編纂所、三大殿西方の武英殿は所謂殿版の出來た處、欽定刊布の諸書は此所で校刻貯藏せられたのである。武英本殿の西には浴徳堂と稱する土耳其風呂を附設した一殿あり乾隆の寵妃香妃の薨史が傳へられて居る。

此等の諸殿は民國四年（大正四年）袁世凱の帝政運動進展と共に國幣二百萬元を投じて大修繕を加へ即位式舉行の準備をしたのであつたが之より先民國三年熱河及奉天の兩離宮にあつた前清帝室の御物を北京に集め文華、武英の兩殿を古物陳列所として三大殿と共に開放し清朝の全盛時代帝力に依つて蒐集せられた珍品貴物は東洋美術の粹を誇りて陳列され人目を驚かしたものであつたが其後政變のある毎に劫運せられ今は僅かに其の殘品に過ぎずと云はるるも猶他に類例を見ざる驚歎に値する幾多の珍寶、貴品に満たさるゝを見れば當年の豪華想像に餘りあるを覺えさせられる。

#### ハ、天 壇

支那は古くより敬天思想が發達し政教道徳の基礎觀念となつて居る、天命を受けて四民に君臨するを天子と稱し、天を祭るは天子の特權となつて居た。北京に天子の祭壇は天壇、地壇、社稷壇、日壇、月壇、先農壇（中に先農、天神、地祇の三壇あり）及び先蠶壇等であるが天壇は其の首位である。天壇の竣工は明の永樂十八年で今より五百二十年前である。内外二

壇に圍まれ、外壇の周圍約六軒、城内の面積約我が八十一萬坪、境内の配置は内壇の内に圓丘及び祈年殿を始めとし皇穹宇、皇乾殿、齋宮、宰牲亭、神庫、神廚等直接祭祀に用ひられた建物があり、外壇内には神樂署、犧牲所等の建物が設けられて居るが主なる建物は蒼天の色に象り紺青色の琉璃瓦を用ひてある。圓丘は天壇の主體で俗に祭天臺と稱せられ祈年殿の南にある、大理石造の三成壇で石の數に九の倍數を用ひ天數に應じさせてある。上層直徑七十八尺高さ六尺二寸、中層直徑百三十尺高さ五尺四寸、下層直徑百八十二尺高さ五尺四寸、此所で毎年冬至の當日早天上帝の神位を壇上に奉移し、之に皇祖皇宗及び天明、星辰、夜明、雲雨風雷の諸神位を配し日出前七刻（一刻は十五分）の時に於て皇帝自ら北面して三跪九叩の禮を行ふのである。東南にある琉璃磚の燔柴爐は神靈を迎へるために柴を燔き又祭後犧牲を焚化した所、周圍の鐵籠は燎爐で西南隅には橙杆の臺も残つて居る。皇穹宇は圓丘の北にある圓殿で圓丘に奉祀する神位を奉安する處である。殿前階下の數石上に立つて一叫すれば特殊な反響が聞えるので此邊を反響境と稱せられる。祈年殿は祈穀壇上に建てられた圓殿で直徑約八十尺高さ約九十尺三層狀の外形をなして居る。祈穀壇は大理石造の三層壇で上層は直徑二百二十五尺、高さ六尺、中層直徑二百九十七尺、高さ六尺五分、下層直徑三百七十尺、高さ六尺三寸、内部天井の組立、大圓柱より其の龍鳳雲波の刻石等實に注目に價するものである。毎年正月上午辛の日に天子自ら三跪九叩の禮を行つて一年の豐穀を祈られた所である。皇乾殿は祈年殿の後方にあり神位奉安の所であり、長廊は祈年殿の東方にあり、祈年殿の祭祀に供物を運ぶ通路で長さ約二百米、其の他を略す。

#### 二、萬 壽 山

北京の西にある翠峯の連峰は西山と總稱せられ風光明媚を以て賞せられて居るが萬壽山は其の中の一である。隋唐時代より西山五百寺と稱せらるゝ程佛寺の營造が盛で茲にも佛寺があつたのであるが乾隆皇帝が皇太后の萬壽節を祝するため大報恩延壽寺を建て從來蓮山と稱せるを改めて萬壽山とし後年重修を加へ此寺を中心とした一大喇嘛廟的離宮として豪華を極めたものであつたが感豐十年（皇紀二千五百二十年）英佛聯合軍の北京侵入に方り一時荒廢に歸したるも光緒十四年（明治二十一年）西太后が海軍擴張費の過半を投じて大修繕を行ひ名を頤和園と改めて夏季駐蹕の離宮に充てられてから面目を一新し現在の豪華版となつたのである。正面の大宮門を入ると仁壽門の内にある一殿は仁壽堂である。清朝時代に西太后が光緒皇帝を擁し政務を視られた所で、玉瀾堂は光緒皇帝の便殿で政變の折西太后が皇帝を一時此所に幽閉した所である。玉瀾堂



に近く元の世祖を輔けて統一の大業を成さしめた耶律楚材の墓がある。樂壽堂は西太后の便殿に用ひられた所、排雲門を中心とする東西に亘る長廊は延長約七百米を算すると云はれる。排雲殿は頤和園の正殿で兩宮駐蹕中朝賀を受けられた處である。殿後の佛香閣は大報恩延壽寺の舊址で光緒十八年の再建である。その西にある銅亭の寶雲閣と稱し建物の全部が銅のみを以て作られ會て喇嘛僧の讀經の場所であつた。昆明湖は古く西湖と稱せられたのであるが乾隆帝離宮營造と共に漢武帝の昆明池の名に因んで改稱したのである。滿洲八旗の精銳をして水戰の技を演せしめた所で光緒の中頃までは水師學堂の設けもあつた程である。西堤の布置は江南の景を模したもので、湖心の龍王廟は昆明池の水神を祭り歷代皇帝祈雨の靈場であつた。東堤に亘る十七孔橋は蘇州寶帶橋を模したるもの、佛香閣の東に建てられた萬壽山昆明湖の大碑は乾隆帝の御筆である。清晏舫と稱せらるる石舫は乾隆年間建造で西太后の時西洋式の樓閣を設け今の形となつた。園内幾多の宮殿樓閣は輪奐の差を競ひて昆明の清波に映じ亭閣迴廊その間に隱見する所到底筆舌に盡せぬ勝景である。

見學後一行は松坂屋北京出張所店員諸氏の催しにかかる晚餐會に招待され談話の間に當地の人情風習等に関し智識を得ること多く厚く厚意を謝して旅館に歸つた。

十月三十日(日) 晴

一行二つに分れ一は蘆溝橋の戦跡を尋ねて午前八時發にて天津に向ひ、一は日本大使館並に興亞院を訪ひて北支に於ける教育狀況に關する一般を聴取して午後一時發にて天津に向ひ天津の中原公司にて會合することとした。

蘆溝橋は北京八景の一なる蘆溝曉月を以て古來著明であり、マルコポーロの旅行記で世界に紹介されたマルコポーロ橋と稱するは即ち蘆溝橋のことである。北京城の彰儀門外約十七軒の西方、永定河に架せられた長さ約二百五十米幅約八米の大石造である。橋東は乾隆帝御筆の蘆溝曉月の碑が建てられて居る。昭和十二年七月七日夜此の橋の北方約一軒を隔てた龍王廟附近に於て偶々夜間演習中であつた我が豐臺駐屯の部隊に對し暴戾なる支那軍が突如として射撃を加へたのが所謂蘆溝橋事件の發端で茲に未曾有の支那事變が惹起されたのである。即ち此の龍王廟を始め橋東の宛平縣城、その東北に近き一文字山、遂か北方に連亘する八寶山等は當時最前線に奮戰苦闘を續けた皇軍の戰場として國民の腦裡に刻まるゝ所である。

大使館に福田領事を訪ひ北支に於ける本邦人教育施設の概況並に今後青年教育に従事する者の參考となるべき意見を求めた。教育施設等に關しては後に記載することとし参考として談られたる要點は「今後日本内地に於ける教育は大陸的で無け

ればならぬ。從來は島國的教育で美點も勿論あるが器局の小さき憾みがある。東亞新建設の指導的國民を養成すると云ふ根本的方針の下に國民教育の一切が行はるゝことを希望する。支那、滿洲に移住し來るこれ迄の同胞には遺憾なる點が甚だ多い、第一に支那の國民性を知らぬ、次に利己的である、堅忍の志操が乏しい、唯時流に應じての利得を漁るのみ、眞に支那國民と提携し之を誘掖して百年の建設に當らんとするものが乏しい、人格、器局の上に於て支那人の尊敬に値するものがあまり無い。これは大陸に移住し來りし者の過去の缺陷であつたと云ふ人もあるが然しこれは一般に通じた我が同胞の缺陷であると反省するが正しいと思ふ。今後の國民教育は飽くまで大陸の指導的人物を養成する所に指導方針を置き人格の陶冶を圖ると共に支那の國民性を能く知らしむる操勵められたいと思ふ。支那語の教育の如きも大事なことの一つである。云々。

次に興亞院に石井教學官を尋ね國民教育の現況並に將來の方針等に関し意見を聞く。

小學校は概して一校生徒三四十名位のもので一種の寺小屋式である、就學兒童の割合は四分の一位、六年の卒業者は又其の二十五分の一位であるから尋常小學校の卒業者は百人に一人の割合と云つてよい。先生の待遇は平均八圓内外、大都會の校長で五十圓、主席は四十圓、師範學校卒業生は三十五圓位と云ふ處である。小學校も學科目擔當で教育者の任期は一ヶ年である。學校は校長の受負制度で一校一年一千圓なら一千圓で受負ひ其の範圍で先生を招聘するのである。招聘と云へば聞えはよいが校長が絶対の權能を有して居るので一年の終りに近づけば教師は校長の機嫌やら生徒の機嫌を取ることに浮き身をやつし精神教育等は思ひもよらぬと云ふ腐敗ぶりである。斯様な譯であるから東亞新建設のため其の基調たるべき教育は眞に重大事であるから一期、二期、三期と次第に改正の歩を進めて行く積りである。先づ教科書の變更である、從前の抗日侮日ものを改めて親日となし、日本語を主要科目とする等がその重點で、内容的には理論よりも實際的に、法政的よりも實業的にと進ましむる方針である。夫れから教育の効果は教員其人によりて左右せらるゝのであるから教育者の養成が急務となつて居る。中央に師範學院二校(師大、高師)あり、之を中心にして四省、四特別市に師範の數を増加して教員養成を計るのであるが緊急の策として從來の教員の再教育に着手して居る。北京の教員養成最高機關と雖も根本的改善を要するのである。臨時のものとして最近開催するものは中等教員の講習會である。講師としては内地から一高の橋田校長、椎尾博士、文化局長坂本氏、文部督學官熊木氏の四氏に御依頼した。自然科學の方よりも思想教育の方に重點を置いた。各省特別市等の小學校教員再教育は各地隨時に行ふこととし軍の督務機關長にリードして貰ふことになつて居る。今後組織的に講師派遣



の豫定である。斯くの如く先づ指導者の訓練をなし北支の各地に組織的なる模範地區を作り北支全部に擴大せしむる方針になつて居る。滿洲に於ける協和會と類似したる中華民國新民會なるものが組織されて抗日支那の廢墟を新生支那に更生させる理想の下に新民主義による日、滿、支提携を標榜して東亞新秩序の達成に努力して居る。教育は是等の機關と密接なる關係を以て行はれるのである。支那の國民性を十分に研究して之に應ずる様に指導誘掖を計らねばならぬと思つて居る。由來支那人は傳統と家柄を重んずる國民であるから是等の事を考慮して北支の中堅となる人を指導し日本人が其の中心となつて新建設に當つて行く様にしなければならぬと思ふ。現在の支那民衆は全くなまかたであり無器用である、工夫、改良等云ふことは絶無と云ふ程である。併し機械的の長時間に亞る仕事となつては到底日本人の及ぶ能はざる長所を有つて居る。抱刀を磨ぐに刃をすりへらして仕舞ふまでやると云ふ笑話のある様に目的なしに唯命じられたる儘やると云ふのが一般に通じたる彼等の心理である。壓倒的權力を以て虐げられて來た過去の長き歴史が支那民族を斯く腐敗せしめたものと思ふ。彼等を導いて共に建設事業に當るには日本人を實際に信頼せしめなければならぬが夫れが容易な事ではない。如何にすれば宜敷いかと云ふに一言にして云へば日本が眞に完成されて行くことに國民が協力一致して邁進することである。而して日本人各自が眞に自國に對する信念を堅持することである。斯の如くにして始めて彼等が日本人を信頼するに至ると思ふ。日本の完成が東亞新建設の基礎である。次に支那をよく知ること、姑めねばならぬ、其のためには支那語の普及が大事である。日本人が支那語を解し、支那人が日本語を解すると云ふことが意志の疏通を計る良方法であることは云ふまでもなく互に國柄を知り會ふ事となるので極めて必要なことと思ふ。現在の日語教科書の如きも大いに改正の必要がある。支那の日常のことを日本語に直すと云ふだけで無く日本の國柄を教ふることに十分意を用ひねばならぬと思ふ。宗教に就いて云へば北支は八割は佛教徒と云へるが勿論低級な信仰で道教其他の混淆である。然し兎も角佛教徒と云ふ名ものが大多數であるから佛教に重點を置いて進むつもりで居る。云々。

午後一時四十五分北京を發し、午後四時半天津に着し松坂屋洋行の要人に迎へられ中京公司にて一行會合することゝなつた。

9、天津

天津は白河を母體として發達した北支隨一の經濟都市である。人口は昨年末の統計にて百三十八萬九千、この中中國人百三十四萬六千、日本内地人二萬九千、半島人、臺灣人七千、其の他の外人は合計にて千三百となつて居る。市街は日本租界外國租界、支那界に區別され、各國それ々の色彩を此處に移して異色ある街衢を形成し列國植民地制度の展覽會場の如き觀を呈して居るとは云ふもの、今や日本租界は市街の心臟部をなし隣接の支那街まで日本色に染りつゝぶされて居る。近年未曾有の大洪水の漸やく引ききたる昨今の事とて後の整理にあわただしき活動を續けて居る様を感じた。傳染病特にコレラが猖獗を極めて居るとの事であつた。

天津に於ける在留邦人の福祉増進に關する事項特に祭祀、教育、衛生等の事業は從來居留民國に於て管掌し來れるものを昭和五年七月設立せられた財団法人天津共益會に於て一括して管掌する事となつた。當會は天津居留民國の容附行爲によりて出來たもので會務は天津駐在帝國領事館の選任せる理事十名により組織せられた理事會によりて處理せられる。其の事務所は日本租界福島街十八大和公園内にあり、其の經營する事業の名稱を擧ぐれば

- |              |                |                 |
|--------------|----------------|-----------------|
| 天津 日本商業學校    | 天津 第一日本尋常高等小學校 | 天津 第二日本尋常小學校    |
| 天津 日本幼稚園     | 天津 日本高等女學校     | 天津 日本青年學校       |
| 天津 日本幼稚園     | 山海關 臨海學校       | 天津 日本圖書館        |
| 發 電 所        | 公會堂及大和公園       | 實 費 診 療 所       |
| ブ ール 會 營 住 宅 |                | 參 考 天 津 居 留 民 團 |

本會の財政は天津租界内に於ける電氣獨占經營事業と租界内約四分の一の土地所有に基く收入とを主たる財源とし、祭祀教育、衛生其の他の事業支出を爲すのである。

イ、天津 神社  
大正天皇即位の御大典記念事業として大正四年居留民會に於て議決し大正九年に建設せられたもので 天照皇太神、明治天皇を合祀し奉る。

ロ、大和公園及公會堂  
大和公園は邦人唯一の遊園で日本租界の中央に位する面積八千二百五十坪で園内に音楽堂、北清事變記念碑、公會堂、運動場、圖書館等がある。



學校に關しては後に記す。

午後十時四十分天津發にて大連に向つた。

十月三十一日(月) 晴

午前四時半山海關驛着三十分間停車、此の間中國聯合銀行出張所にて彼此紙幣の交換をなす。

山海關は滿支國境の都市で鐵道も國際列車として北京までの北寧鐵道に連接して居る。一名臨榆又は榆關とも呼ばれ有名な天下第一關で關外夷狄の中原侵入に備へた所である。萬里の長城は實に此の海岸に端を發して居るのである。午後零時半奉天驛に着し同一時四十五分發急行鳩に乗車、同七時四十五分大連驛に着、同市繁華ホテルに投宿した。

十一月一日(火) 晴

本日は大連を見學した。

## 10、大 連

大連は極東に於ける自由港で大陸の關門新興滿洲國の大支關である。滿洲國一ケ年間の貿易高約十億圓、其の中大連港の貿易高は約七億三千萬圓、對日本貿易四億圓と云はば如何に大連港が滿洲國に取つて重要地であり滿洲國經濟のバロメータと云はれる譯がわかるのである。日清戰役に於て一度我國の領有となれるもの三國干涉によりて清國に還附、露國が關東州を租借するに當り此處を一大商港としてドルニート改名旅順の軍港と併せて東洋進出の根據としたのであるが日露戰役の結果再び日本軍の占領となり明治三十八年二月十一日の紀元節を卜して大連と命名したのである。爾來星霜三十余年幾多の變遷を経て今や日滿支をつなぐ興亞の一大要點として東洋一を誇る埠頭の雄大なる規模、設備を見るに至れるもの實に感慨無量と云はねばならぬ。

市街はアカシヤの街と呼ばれる程並木にアカシヤが多い。高壯な煉瓦造りの建築に手入れの行き届いた廣潤清爽の街路、大小七ヶの廣場を中心として其處から蜘蛛網狀街路を放射せしめた特相、植民都市として進取的清新な濺刺さを看取される此の都市計畫は露西亞のプランを我國で踏襲したのであるが露西亞は佛國巴里にその範を採つたとの事である。

參拜見學せる主なる所

イ、大連神社 天照大神、大國主命、明治天皇を合祀し率り大連市民の氏神と仰がれて居る。

ロ、忠靈塔 中央公園御靈ヶ丘にそ、り立つ忠靈塔は日露戰役に際し蓋平以南、南山、得利寺附近にて戰場の花と散つた將兵六千二十九體の遺骨を御納めした所で更に滿洲事變、支那事變の華と散つた各勇士の遺骨を合祀して居る。塔の高さ三十三米、内部は五室にわけて奉安されて居る。

ハ、滿鐵本社 滿洲の文化及資源開發の大使命を擔つて明治四十一年四月創立以來鐵道は勿論港灣、炭鑛、諸試驗研究所、教育文化の施設迄滿洲開發に渾身の努力を捧げて來たのである。

ニ、滿洲資源館 滿鐵會社の經營で滿洲に於ける資源の紹介に力を注ぎ農産、鑛産をはじめ各種原料品、加工品の實物模型並に是等の參考資料を蒐集陳列して其の適切なる説明圖解を施し一般の觀覽に供して居る。視察者にとつて滿洲資源のアウトラインを掴むに是非訪はねばならぬ所である。

ホ、大廣場 大連市の政治的、經濟的、地理的中心で滿洲に於ける距離の歸着點となつて居る。廣さは約一萬坪周圍六百米大廣場を圍む主なる建物は滿鐵經營の大和ホテル、大連市役所、稅務署、東洋拓殖會社、中國銀行等々。

ヘ、大佛 日露戰役に護國の神となつた人々の遺骨で作つたビルシヤナ佛である。戰役後死體全部を火葬に附したる筈なりしが其の後戰場を巡視したるに風雨に曝されたる遺骨が續々として顯はれた。勿論中には露西亞軍人のもあつたであらうが全部拾集して粉末となし之を以て大佛を作つたのである。

ト、中央公園 總面積三十六萬坪、アカシヤの巨木鬱蒼として茂り季節／＼の花白ひ大小の道路縱横に開け五十萬市民の慰安塔として合點される。中央に忠靈塔があり、野球場、相撲場、庭球場其の他市民の精神、體育の道場ともなつて居る。

チ、星ヶ浦 滿鐵經營の海岸公園で風光明媚、更に櫻の名所として知らる。面積三十三萬坪、遊園内には諸種の設備あり、

滿洲開發の恩人初代滿鐵總裁後藤新平伯の銅像が當年の氣魄を偲ばせる。

リ、碧山莊 滿鐵の傍系會社福昌華工株式會社の經營で敷地三萬八千坪、建物總坪一萬二千坪、僅に一萬六千人を收容出来る舍宅である。茲に收容さる、苦力の数は繁忙期なる十二月より翌年五月までは一萬五千人、六月より十一月までは閑散期であるけれど九千五百人を下らない。山東農民出身が約九割を占めて居る。莊内には獨身房あり、家族房あり、療養所浴場、消毒所、賣店、料理屋、劇場、映畫、音楽、禽獸飼養、園藝、角力等あらゆる設備が完備し、生活の安價安定を計ると共に安樂郷あり教養所たるべく努力して居る。



又、油房 滿洲の生む大量農産物大豆より豆油と豆粕とを製出する工場を油房と稱し全滿洲に四百餘あり、其中六十軒が大連にある。工場内の苦力は全裸體で活動して居る。

ル、露天市場 一名シヨウトル市場と呼ばれて居る、シヨウトルとは滿語で一盞む一意味で盛まれた物は此の市場に来て見れば見つかる云ふ時代があつたので此の名が出来たと云はれて居る。以前は名の如く露天市場のみであつたのが次第に變形して現在では戸數も八百軒程あり、芝居、落語、浪曲、手品、活動等も附設され滿人の民衆的娛樂地となつて居るが尤づ茲にはどんな物でも滿人家庭に必要なものなら有ると云つてよい。寶石、綾錦より古衣は勿論苟しくも使用し得るものなら古釘一本、古草履片欠でも有ると云ふ有様で滿人實生活の様式を窺ふに最もよき所と御はれる。

夜に入りて多年在滿人なる舊知の招きを受け種々なる感想談に裨益する處が多かつた。

十月二日(火) 晴天

今日は旅順の戦跡を訪ふ事として。

### 11、旅 順

大連、旅順をつなぐ旅大道路は延長四十八軒、バスにて一時間半を要した。沿道は風光明媚、旅大八景を稱せられて居る天より降つた星の變形と云はれる黒石橋、日露戦役に我が水雷艇の根據地であつた小平島、櫻の名所と云はれる龍王塘、白沙を洗ふ蜿蜒四軒の玉の浦を過ぎ白銀山のトンネルを出れば旅順の市街である。白玉山の表忠塔、黄金山、旅順港等が暮を切つた裸に現はれて来た。

西洋のヴェルダンと共に世界古戦場の双璧として燦然たる光輝を放つて居る。旅順は三十數年前我等が同胞骨肉幾萬の死屍、流血にさながら蔽はれた古戦場で、今日東亞新建設の先驅的礎石となつた忠魂の永へに眠る靈地であつて茲に巡拜して靈感に打たれぬ者は蓋し一人も無かるべく實に國民修養の大道場とも云ふべき處である。

イ、白玉山 旅順の中央に聳え新市街の中間に當り山頂に碧空を突いて立てる表忠塔は二年五ヶ月を費して明治四十二年十一月竣工したもので塔頂の砲彈臺には乃木、東郷兩將軍の表忠記が刻まれて居る。塔長二百十八呎、その後方には旅順攻圍戦に護國の鬼と化した二萬四千五百四十柱の靈骨を奉祀したる納骨祠がある。戦利品記念館は元露軍下士集會所であつたのを其儘利用したもので我が砲彈の跡を存し露軍からの戦利品を陳列してある。

ロ、東雞冠山北堡壘 旅順の防禦堡壘中の模範築城で備砲數廿四五門を有し我が軍總攻撃の際第一回、第二回と何れも全滅の苦極を嘗めた處である。其の後我軍は地下坑道を掘り敵の陣地を地下より大爆破を試みたのであるが鐵より堅き巖石を掘り進むに一日尺寸の行程に過ぎなかつた。更に堅牢無比なるべとん内部にて露軍と數尺の對峙をなしつつ十余日間言語に絶する肉薄戦を演じて占領せる激戦地である。

ハ、二龍山堡壘 我前進部隊過半地中に生理となり残存敵兵實に三名と云ふ激戦地である。

ニ、爾靈山(二百三高地) 此の山の攻撃のみにて皇軍の死傷七千五百七十八名、戦死者二千二百十名と云ふ旅順攻撃中最大犠牲を拂つて占領したる所、中腹に乃木少尉の戦死の碑あり、山頂に有名な爾靈山の詩碑聳えて萬人に仰がれて居る。此の二百三高地は支那人固有の名稱は老爺山、露人はウイソカキ山と云つて居り戦後滿血山と名づけられたが乃木大將が皇軍勇士の靈で奪つた山であるとして有名な「爾靈山嶽豈難攀」の詩を賦されて以來爾靈山と稱するに至つた。山頂に上れば旅順の要塞海陸共に歴々として双眸に集まり来る。茲に立ちて攻防戦の有様を傾聴し皇軍の苦戦を思ふ時滂沱たる感涙を禁ずる事が出来なかつた。

ホ、水師營 有名なる乃木大將、ステツセル中將兩將軍歴史的會見の處である。昔日支那水軍の根據地で當時戸數六百八十戸もありしが殆んど砲火に見舞はれて唯此の民屋のみ第一師團衛生隊の繃帶所として赤十字旗の掲げありしため敵軍も之に砲火を向けず無事残されたるを兩將軍會見の場所に選定されたので當時の面影其のままが粗雑な繃帶臺を中心として眼前に示されるので感慨實に無量である。兩將軍駒繫の棗の老木は今も元氣で花も咲き實も結び當年を偲ばせて居る。

ヘ、博物館 新市街の西北部にある。滿蒙の現況、風俗等の資料を汎く蒐集し併せて滿蒙支那の考古的資料を陳列して居る。三千年前の古陶器、銅器、古錢、土偶、ミイラ、西藏の壁畫等中央亞細亞の土俗資料は特に豊富である。午後五時大連に歸り教育並に實業方面に活躍し居る舊知を訪ひ被地に關する知識の蒐集に勤めた。

十一月三日(金) 雨

鮮滿北支の駆足的視察旅行も茲に豫定通りの行程を了し本日午前九時半汽船扶桑丸に搭乗、同十一時大連港を出發した。今日偶々明治館に當り船中より謹みて東方明治神宮を遙拜、皇威八紘に光被する有難さを感謝し奉る。船客に對する税關吏の所持品検査あり。



十一月四日(土) 晴  
海上無事。

十一月五日(日) 晴  
午前八時門司港着、暫時上陸して和布刈神社に参拝した。當社は神功皇后三韓御征伐の砌り奇瑞あり御凱旋後御報賽の思召を以て御建立になられたるものにて今も當時の奇瑞に因める神事が行はれるので有名である。午後一時出發風光明媚の瀬戸内海航路を経て神戸へ向ひ歸航。

十一月六日(月) 晴  
午前八時神戸港着、同九時半三の宮驛發上り列車に搭乗、午後一時十分名驛着、多數出迎の方々に感謝の挨拶をなし、一行連れ立ちて熱田神宮、護國神社に御禮参拜後縣廳に参上それ／＼挨拶を済して同三時半解散。

#### 四、滿洲國の教育

滿洲國教育の基調は康徳二年五月御煥發の日滿一徳一心精神を宣べられて國民の擔ふ所を教示あらせられた。回鑾訓民詔書であつて本詔書は滿洲國の官署學校團體の凡てが奉戴して 聖旨の徹底を期して居るのである従つて何れの學校も校長は滿人なるも必ず日本人を副校長として實際教育の統率に當らせて居る。新學制は康徳四年五月二日公布、翌五年一月一日より施行された、同制度は修業年限の短縮、教育の機會均等、實業重點主義等を改革の要點とせるものである。

初等教育機關は之を國民學校及國民優級學校とし、國民學校設置困難なる地域又は適當せざる地域には國民學舎を置き之に代へ、私立の國民學舎に該當するものを國民義塾と稱して居る。滿七歳を以て就學齡とし國民學舎並に國民義塾は三箇年にて修了、國民學校は四ヶ年にて修了である。國民優級學校は國民學校終了者を入學せしめ二箇年にて修了となる、故に國民優級學校を卒業して初めて我が尋常六學年卒業と匹敵するのである。

中等學校以上は實業教育又は實務教育にして學校體系の各段階に於て宗成教育たらしむることを要綱とし所謂豫備學校式のものはない。

國民學校卒業後上級學校に入らんとするものは國民優級學校か職業學校かの二つである。職業學校修業年限は二箇年乃至

四ヶ年である。

國民優級學校修了後上級に進まずとするものは國民高等學校(女子は女子國民高等學校)か師道特修科(二箇年)か補習科(二箇年)かである。

國民高等學校(女子國民高等學校)我が内地の中學校(高等女學校)であつて中堅國民たるべき男子(女子は良妻賢母)を養成するを目的とするのであるが其の內容に飽くまで實業的に一校を單位として工、商、農、水産、商船の五科を配して居る。

國民高等學校修了後上級に進まんとするものは大學又は師道高等學校に入るのである。

大學は我内地の専門學校であつて設置主體は私立のものが主として國立である。是等國立學校を列挙すれば次の七校である。

新京法政大學、新京醫科大學、哈爾工實業大會、奉天農業大學、吉林師道高等學校、新京工礦技術院、奉天工礦學校、師道教育機關としては師道學校、師道特修科、師道高等學校、師道訓練所、臨時教員養成所等がある。師道學校は初等教育教師養成を目的とし修業年限二箇年、國民高等學校三年修了程度を以て入學資格とし設置主體は省又は特別市である。師道特修科は師道學校と附設するもので修業年限二箇年、師道高等學校は中等教育教師養成を目的とするもので現在國立として吉林に女子部は新京にある。修業年限三ヶ年、師道學校若しくは國民高等學校(女子國民高等學校)卒業を以て入學資格とする。師道訓練所には中央と地方との二つがあり共に現職教師の再訓練を行ふもので前者は新京にのみ一ヶ所存在し現職教師の外新採用の中等及び初等の日系教師の訓練も行ふ、後者は全滿に十一ヶ所設置してある。臨時教員養成所として奉天に商業教師養成所及實業教師養成所があり中等教師の養成に當り修業年限一ヶ年である。

職業學校には農業、工業、商業の各校があり修業年限二年乃至三年である。

以上の外に特別教育施設として種々雑多のものがあるが其の一二を擧ぐれば

本溪湖工業實習所、普通技術員養成機關で修業年限三ヶ年である。  
留學生豫備校、中等學校卒業者にして日本の高等専門學校以上に入學せんとするものに對して一ヶ年の豫備教育を施す民生部直轄の機關がある。尙日本留學生の中に豫備校留學と認可留學との二種あるが康徳五年度に於ける留學生總數は二千二



百十八名内補助留學生は四百四十名である。  
以上の各種教育機關の現状を示せば次の通りである。

種別	學校數	教師數	生徒數
國民義塾	一、八三七	一、九二三	五七、六一五
國民學舍	四、〇〇二	四、二七七	一八四、六一八
國民學校	六、三六四	三二、九三七	一、〇三九、四五二
國民優級學校	一、六九七	四、六九五	一四八、三八五
國民高等學校	一〇〇	一、〇〇三	一、五八六
女子國民高等學校	三一	四四二	二、九二五
職業學校	七八	四七三	七、八九三
師道學校	一五	二二二	三、九〇一
師道高等學校	一	五九	四五八
大學	八	三〇三	一、九一五

滿洲國に特殊の教育機關が二つある、一は建國大學にして一は大同學院である。

建國大學は滿洲建國の世界史的意義（皇道宣布）を擴充顯現すべき人材養成の爲の獨創的大學であり、従つて一切の既成概念を超越し、廣く深く亞細亞の現状並に將來を遠視し建國精神に立脚して高遠なる理念に基き雄渾なる構想の下に確固たる基礎を樹立することを第一義として居る。即ち建國大學は建國精神の眞體を體得し、學問の蘊奥を極め、身を以て之を實踐し、道義世界建設の先覺的指導者たる人材を養成することを目的として創設された滿洲帝國の最高學府であつて康徳五年五月二日訪日宣詔記念の佳節を下して開學式を舉行され長くも 皇帝陛下より優渥なる勅書を御下賜になり同校の向ふ所を示諭遊ばされた。其の組織は前期及後期に分し、その修業年限は各三ヶ年である。前期に入學し得る者は國民高等學校を卒業したる者又は總長に於て之と同等以上の實力ありと認むるものにして選抜試験に合格したる者、又後期に進學し得るものは前期を修了したる者又は學制に依る大學を卒業したる者、或は總長に於て之と同等以上の實力ありと認むる者にして詮衡

試験に合格したる者とされて居る。尙學内には大學院及研究院を置き専門事項の深遠なる研究に併せて國民思想の涵養、教學の根本精神の確立、國家政策の基本原理の樹立に寄與し、並に東方文化の興隆を圖るを主眼として居る。教科の内容は前期にありては高等普通教育を主とし、特に建國精神の理論、勤勞的實習、軍事訓練に力を用ひ、且つ日語又は滿語を必須課目とする。訓育に就いては全員塾に收容し（各民族共塾）嚴格明かなを規律生活と自治訓練とを體得せしめ身心の鍛鍊と人格の陶冶に資す。後期にありては國家の根幹として必要なる法政、經濟、倫理、哲學、歴史等を教科要目とし、更に勤勞的實習、軍事訓練を行ふ。訓育に就ては前期に準ずる。建國大學の總長は現在張國務總理が兼務し副總長として作田莊一博士が事實上學務を綜理して居る。

大同學院は建國の大理想を體し、一身を顧みず國事に邁進する青年官吏層の擴大強化を圖る可く政府によつて開設されたものである。即ち同學院開設の眞目的に滿洲帝國官吏たらんとする者、或は現職官吏を入學せしめて共通の建國理想と指導精神の下に陶冶訓練をなし國土的官吏を養成せんとするにある。本院の成立は滿洲事變勃發直後、滿洲建國の理想に燃えて地方自治の確立を目指し敢然として挺身赴難せる先覺者の結成體たる自治指導部を母體とし、大同元年七月一日國都南嶺の聖地に呱呱の聲を擧げ衝東北軍兵舎の一部を改終して校舎を定めたるに始まる。開學當初は日滿學生を混合收容したが、滿系中堅官吏育成の緊要なるに鑑み、康徳元年より之を分離し、別に滿人現職青年官吏中より採用收容して第二部とし、更に康徳三年度よりは現職日系優秀青年官吏をも收容再教育を實施して居る。院長は創立當初駒井國務院總務廳長これを兼ね、以後歴代總務廳長し兼任としたが、康徳二年四月專任院長として現井上忠也氏（陸軍中將）の就任を見るに至つた。

### 滿洲國社會教育

民衆教育館、地方に於ける社會教育實施の綜合的中心機關で事業の主なるものは講演會、講習會、展覽會、簡易漢字教育施設、娛樂施設、映畫教育、簡易な圖書館經營、體育思想、衛生思想の普及、風俗改善等で全國に省立八、縣立七十六ある民衆學校、不就學者に對し、其の餘暇に於て短期的に簡易な知識技能を授け國民的訓練を施すを目的とする。現在全國に總數二千四百五十校、生徒七萬三千餘ある。圖書館、省縣立で合計八十二館ある。康徳五年度の全國藏書數は七十三萬一千八百十一冊で毎月平均入館者は十七萬九千七百六十四名であつた。



映畫教育、本部より全國各省に交附した映寫機に三十五ミリ十八臺、十六ミリ十二臺で、本部にフィルム、ライゴラリを置き現在三十五ミリ百五十本(二百九十六卷)、十六ミリ七十一本(七十三卷)を所有し、地方の特殊事情に應じ映畫教育班を派遣することになつて居る。

放送教育、本部より各省に二百三十臺のラヂオ受信機を配布し新京中央放送局を利用して教育放送をやつて居る。民衆讀本、文藝の興隆と健全なる大衆讀物の提供を期するため民生部大臣賞を制定し一ケ年間優秀文藝作品に對し賞状及副賞として金一千圓を授與し、又建國並に滿洲國承認の兩記念日を卜して一年二回懸賞文藝募集を行ひ其の成績見るべきものがある。猶文藝雜誌等に助成金を交附してその活潑なる活動を促し滿日文化化協會には十萬圓の助成金を交附し東方國民文庫として健全なる民衆讀物を出版せしめて居る。

社會教育指導者養成、康徳五年度より本部主管として開催、各省、特別市より五十名の第一線勤務者を召集して在京各機關の權威者を網羅して講師とし一ケ月間第一回講習會を開催して好結果を収めた。文化事業として國立中央博物館が設立され、續いて國立中央圖書館の設立を見るべく、美術展覽會は康徳五年五月第一回開催せられ爾後毎年開催せらるべく、斯くて絢爛たる國都の華は王道樂土を裝るであらう。

滿洲國の教育は凡て民生部に於て司る、現在の民政大臣は孫其昌氏、次長は宮澤惟重氏。宮澤氏は大正八年東京帝大法學部卒業後滿鐵に入社して今日に至れるもの、教育司長田村敏雄氏は大正九年東京高等師範卒業、同十一年高等試験行政科合格、同十三年東大文學部社會科卒業、十四年東大經濟學部經濟科卒業、大同元年滿洲國に入り現職に至る。

在滿日本人子弟の教育機關

治外法權撤廢後の滿洲國內の日本人教育は、條約附屬協定第十五號により日本政府に於て取扱ふこととなり監督行政機關として大使館内に教務部を新設し、日本人學校組合、普通學校組合(半嶋人教育)學校組合聯合會(中等學校)等が其の經營を行つて居る。今其の校數並に生徒數を擧ぐれば昭和十四年五月一日現在にて大使館教務部の調に依れば

小學校 (在外指定)	校數	生徒數
同 (指定外開拓地委託)	一七九	六一、九九三
	三三	一、六一一

普通學校 (指定)	校數	生徒數
中學校	一四	九、二五一
高等女學校	七	五、四〇九
實業學校	六	六、六五七
關東洲内		二、二一六
幼稚園	二四	
小學校	二六	二〇、三六一
中學校	五	四、四五二
高等女學校	六	五、〇九七
實業學校 (内女子)	四	
高等專門學校	二	
大學 (内奉天)	二	

協和會

因に從來日本側に於て經營されて居た滿鐵附屬地滿系學校の全部、及半島人普通學校中十四校を除く其の他の半島學校並に扶輪小學校は治外法權撤廢後滿洲國に移讓され新學制下の教育を施行されて居る。

協和會は所謂教育機關では無けれども滿洲國の如き特種の情勢の下に建設せられたる國家に於て擔當する役割を思ふとき大組織的なる民衆教化の機關と見ることが出来る。其の綱領は

- 一、建國精神を顯揚し
- 一、民族協和を實踐し
- 一、國民生活を向上し



一、宣徳連情を徹底し  
一、國民動員を完成し

以て建國理想の實現、道義世界の創建を期す、と云ふのである。即ち協和會は滿洲帝國の政治理想の發現であり、建國精神體得者の集團である。滿洲國建國の精神たる日滿不可分割關係の確立、民族協和の實現、王道樂土の完成、道義世界の創建を國民に徹底せしめ無窮に護持せしむるため眞實の體得者によりて組織せられ、國家の機構として活動するので、政府と何等對立するものでなく政府を包含すべき舉國一致的、全體主義的立場のものであるから政府の主腦者が眞正なる協和會精神の體得者を以て構成せらるゝことにより理想的な滿洲國が完成せらるゝのである。協和會の活動單位は分會で、全國の分會の統合體が滿洲帝國協和會である。會が有機的活動をなすに必要な意志決定機關と會長、本部長、分會長等の執行機關を置き、訓練機關として協和青少年團、協和義勇奉公隊を設けて居る。康徳五年末現在にて各省の本部合計四百四十八、分會合計三千二百四十六、會員數總計百十八萬六千二百四十九となつて居る。

五、滿洲國の神社、忠靈塔

神社は日本人精神生活の表徴とも云ふべき存在であつて苟くも日本人の集團的生活を永く營むところには必ず神社の奉祀を見るのである。現在滿洲に奉祀せらる神社は七十七社で祭神は天照天照皇大神を奉斎するを主となし大國主命、明治天皇事代主神、應神天皇、靖國神等の祭神として奉祀するが例となつて居る。次に大陸に於ける殉國の忠靈を祭神として建てられたる忠靈塔は昭和十三年九月末日現在にて次の通りである。

旅順納骨祠	祭神	二四、五五二柱	明治四十年五月建立	旅順白玉山
大連忠靈塔	祭神	六〇六七柱	明治四十一年九月建立	大連中央公園
遼陽忠靈塔	祭神	一四、八六五柱	明治四十年十月建立	遼陽驛南方
奉天忠靈塔	祭神	三五、六七一柱	明治四十三年三月建立	奉天千代田廣場
安東納骨祠	祭神	三、四二七柱	明治四十三年六月建立	安東鎮江山
新京忠靈塔	祭神	一、〇三六柱	昭和九年十一月建立	新京

何れの神社、忠靈塔も参拜者のあと絶ゆること無く敬虔の至情と感謝の誠を捧げて居る。實にや目に見えぬ神に通へる心こそ眞に建國的國民活動の源となつて居るのである。

六、滿洲國の宗教

在滿日本人側のものにつき統計的數を示せば、神道に於て大社教、天理教、金光教、神習教、黒住教、實任教、神理教、御嶽教、産靈教、神道本局、等、會堂數八十四、佛教に於て眞宗、眞言宗、淨土宗、日蓮宗、曹洞宗、臨濟宗、寺院數一三〇、基督教に於て日本基督教會、組合基督教會、福音教會、尺主教、聖公會、カトリック教、救世軍、ミカリー教會、ホーリネス、堂數六十二。

滿洲に於ける在來の宗教は佛教、儒教、道教、喇嘛教、回教、等で何れも多年の歴史を有し民族實生活の上に密接な關係を有し、ことに近來日本人の特有なる信仰並に歐米人の基督教其他勃興しつゝある新宗教等入り込んで居るが其の信仰内容は基督教、回教以外は系統を缺き儒、佛、道の祭神も互に混合して居る有様である。僧侶、道士中には宗教本來の使命を失し、救世済民の實行能力無きのみならず迷信邪教を流布して民心を迷はすものあるを以て邪惡なる宗教の監督取締りに十分意を用ひて居る。

佛教は古くより行はれて居り、現在最も多きは臨濟の禪宗であるが宗教として活力は殆んど無い。寺院の數は相當あるけれど僧侶は唯佛前で念經するだけで社會的教化等云ふのは無爲無能である。今後日本佛教徒の活動に期待する所甚大なるものもあるも將來の未知數である。

道教は元來老子の哲學的人生觀に出發して居ると云ふものの佛教其他土俗の迷信と混淆複雑して民衆化され今や全く迷信の淵に墮して居るがそれだけ大衆的信仰の中心となつて實生活に喰ひ入つて居る。三十六宗七十二派に別れ龍門派が最も盛んである。毎年行はれる娘々廟の祭りは有名である。娘々神位は三體の女神で、中央が福壽、左右に治眼と授兒との側像あ



り、之に祈れば良縁が結ばれ、子孫が授かり、金が出来、出世の道が開かれ長壽が得られると云ふのである。之に對稱して老爺廟と云ふのがある。之は關帝廟とも云ひ關羽の祭つたもので武神であり、護國の神、財の神として大なる人氣を持ち、滿洲國に於ては其の大祭を國家的に行ふこととなつて居る。

喇嘛教は佛教の一派で極度の偶像崇拜である。西藏から蒙古にかけて盛んに行はれて居る。清朝時代に蒙古懐柔政策として保護を與へたのが其の隆盛を來した原因であると云はれる。老なる喇嘛塔の至る處に吃立して居るには驚かされる。毎年二回の大祭には魂神や天玉母の跳舞あり、怪奇、異様な假面を冠つて踊り狂ふとのことである。喇嘛は西藏語で無上の義支那では之を上師又は尙師と譯して居る。即ち一種秘密佛教の僧を呼ぶ名稱であつたのが轉じて宗名となつたので、これは宗外者の名づけたもの、教徒自らは佛教と稱して居る。印度から傳はつた佛教の一種秘密部（眞言）が西藏在來の風俗、信仰と混合して出來たので、一切の現象は宇宙の本體たる法身理體の佛より發したもので、一切衆生悉く佛縁ありと説き、涅槃に歸入するを究極の目的とする其の原理は佛教に通じて居るけれど、喇嘛僧の多くは無學文盲で其の行事等凡そ佛教とは巨離あるものとなつて居る。

回教は天方教、又清真教とも云つて居る。普通マホメット教と呼ばれる。偶像は一切崇拜せず、宇宙創造の神アラを信じ其の信仰極めて熱烈である。他宗教の者とは結婚をせず、又商取引をやらぬ、豚を食ふことを忌み、羊肉を常食とし、酒を飲まず、魚鳥の類を殆んど食しない、従つて他宗の者とは會食を共にせず、其の信條とする處は

- 1、アラを信すること。
- 2、天使を信すること。
- 3、コーラン（經典）を信すること。
- 4、豫言者を信すること。
- 5、宿命を信すること。

其の勤行としては一に告白、二に祈禱、三に喜捨、四に斷食、五に巡禮、中にも祈禱は回教の生命とも云ふべく、祈禱に當つては清淨、齋戒、割禮の三つの修行を條件とする。寺院は清真寺と稱し、清い潔、眞は誠であつて、回教の象徴する語である。清真寺は信徒の禮拜所で對象たるべき神像なきは勿論殆んど何等の裝飾も無く然かも却つて深き清淨の感を與へる

信徒の信仰は實に眞摯熱烈であつて信徒間の團結力に極めて鞏固である。

儒教は云ふ迄も無く孔子の教義を遵奉するもので古來彼地有識階級の一の自負的存在であり、殊に滿洲國建國精神たる王道は儒教に立脚する所より政府は國教として之を尊崇し聖道復興に力め孔子祭を國祭として居る。現在地方にある文廟（孔子廟）は八十九個所に達して居る。然し乍ら實際に於ては一の立看板として置かれる傾向で地に墮ちたる論語の精神の宣揚を見るは尋常ならざる努力に俟つものと思はれる。

薩滿教は滿蒙古來の郷土宗教である。薩滿と云ふは蒙古式の稱へ方で滿洲では之を薩嘛と云ひ、一種の自然崇拜である。神と人との間に巫が立つて仲介するものと信ぜられ種々の儀式を行つて神意を傳へ、人の念願を通すると云ふ加持、祈禱、呪咀などをするのが特徴となつて居る。清朝時代の儀式は之に依つたもので、喇嘛教の盛んになるや其の形式、内容共に混淆を來して今日に至つたもので低級なだけ反つて民間の信仰に適し、相當の潛勢力を有して居る。

其の他に基督教あり、猶太教は哈爾濱に唯一の教堂ありて在滿ロシア人の一部に信仰されて居る。紅卍教、在理教等稱する新興の教へが局部的には隠然たる勢力を有して居る。

## 七、參觀したる學校

### 國民學校

#### ◎奉天市公立新高國民學校

大正八年創立滿鐵會社の經營なりしが康徳五年一月一日より新學制實施

校地	建物敷地	運動場	實習地	其他	校舎
	一三三三三、一四平方米	二九〇四、一〇平方米	六〇一、七六平方米	二八二三、六〇平方米	普通教室一二、講堂一、衛生室一、男子實務室、學生圖書室一、女子實務室一、工作室一、販賣室一、校長室
					計八六六二、五〇平方米



職員 一、職員室一、倉庫三、溫室一、小便室一、湯呑場一、宿直室一、便所三。  
 校長一、教諭一七、事務員一、校醫一、衛生婦一(内日本人は校長外五人、他は滿人)  
 學科 日語、算術、國民道德、圖畫、作業、習字、滿語、體操、歷史。  
 學級數 國民學校七、優級學校五、國民學舍二。  
 生徒數 男六四〇、女二七八、計九一八。  
 經費 四八二五五圓(康徳五年度)  
 主要教育施設

甲、教育方面

- 一、校訓、至誠勤勞、至誠敬感、至誠協同、以至忠孝。
- 二、訓練要目、修己、勤勞、清潔、規律、敬愛、正直、禮儀奉公、協同、公德、守則。
- 三、基礎習慣到馴、1全校訓練事項、2學年訓練事項、3學級訓練事項。
- 四、朝會、每朝全員集合し、皇居遙拜を行ふ。
- 五、愛國日、毎月一日國旗掲揚式及詔書奉讀式を行ふ。
- 六、謝恩奉仕日、毎月十五日寺廟其の他の奉仕洒掃作業を行ひ克己、儉約、儲蓄をなす。
- 七、週間訓練、毎週の訓練事項を定め之が徹底に努む。
- 八、一齊洒掃、毎日全學生職員一齊に校舎内外の洒掃作業を行ふ。
- 九、自治團、1學級自治團——各學級に組織、2學校自治團——實踐部(看護當番)、文藝部、體育部、作業部、衛生部、統計部、六部設置、代議員會——部會を毎月一回開催、3校外自治團——通學地區別に編成。
- 一〇、協和少年團、國民學校第四學年及國民優級學校の男子學生にて組織
- 一一、師生會食、毎日の晝食は各學級に於て師生會食す。
- 一二、學級表彰、學級の學習、風紀、出席等の成績につき調査し優秀なるものを毎月一回表彰す。
- 一三、家庭訪問、春秋二回定期に行ふ外必要に應じ隨時行ふ。

一四、父兄會、春秋二回定期に行ふ外各學級學年に於て必要に應じ隨時に行ふ。

乙、教授方面

- 一、教授細目 各學科研究部にて作製、隨時修正追補す。
- 二、教授案 教材配當、週案、日案。
- 三、研究授業 定期又は隨時に全學級行ふ。
- 四、教室設備 教室常用設備の工夫、研究及利用。
- 五、學生圖書室 學習し参考と讀書趣味の養成に資す。
- 六、販賣部 學生の商務實習として行ふ。
- 七、校外實習 長期休業中に實施す。
- 八、學生文集 白揚を發行す。
- 九、映畫 隨時行ふ。

教授時數 每週二十四時間乃至三十三時間

丙、養護方面

- 一、全校體操 毎日二十分、全學生、職員。
- 二、體育會、遠足 豫定案に依り實施
- 三、課外體育指導
- 四、體力測定 毎年一回。
- 五、身體検査 毎年定期に實施。
- 六、治療 トラホーム、白癬の治療をなす。
- 七、蛔虫驅除 毎年二回行ふ。
- 八、衛生講話 要目に依る。
- 丁、家庭とし連絡方面



- 一、家庭訪問
- 戊、學校行事
  - A、每日行事
    - 一、職員朝會 一〇分
    - 三、朝會 一〇分
    - 五、建國體操 二〇分
    - 七、師、生畫食及自習運動 五〇分
    - 八、第五校時授業
    - 一〇、第六校時授業
  - 二、父兄會
  - 三、通知簿
  - 二、日習 二五分
  - 四、第一、二校時授業
  - 六、第三、四校時授業
  - 九、校舍內外一齊清掃 二〇分
- 一、課外運動、或自習 輪番學級學生圖書閱覽(放課後一時間以內各生隨意)
- 二、學校自治團實踐部當番學生各教室巡視(放課後一時間)
- 三、週番教師各教室巡視(退校時三〇分前)
- 一四、其他作業當番生勤務、學校園並動物飼育(隨時)

月	教育		其他	職員、研究會
	朝會	時		
月	校訓齊唱、金剛石合唱、本週實行事項發表(實踐部當番)	清掃訓練及檢閱(第五校時)	對眼疾學生洗眼及治療(午間)	職員、研究會
火	默想(レコード鑑賞)	對眼疾學生洗眼及治療(午間)	右に同じ	職員、研究會
水	小學藝會(當番學級)	對眼疾學生洗眼及治療(午間)	右に同じ	職員、研究會
木	校長講話	對眼疾學生洗眼及治療(午間)	右に同じ	職員、研究會
金	默想(レコード鑑賞)	對眼疾學生洗眼及治療(午間)	右に同じ	職員、研究會
土	本校歌合唱 本週實行事項批評(實踐部當番)	實踐部自治會(第一校時)	實踐部自治會(第一校時)	職員、研究會

C、每月行事(教育行事)

時	行	事	時	行	事
一月一日	愛國日	一、國旗揚揚式 二、詔書捧讀式	自二十五日	淨化週	遠足會或小運動會(四、五、六、八月低中高學年別)
一月以後一週	當月訓練事項強調週		中旬	學校自治會代議員會(第六校時)	二室に集合協議、指導講話
二月	校會、自治會(第四校時)、團別集合、班別點呼、團員反省、指導講話		月末	學校自治會部會(第六校時部別會合)	協議指導講話
月中一回	映畫會		月末	學校自治會部會(第六校時部別會合)	協議指導講話
十五日	檢閱日(身體、衣服、整頓、記名及學用品の檢査)		月末	校內優良成績品掲出、雜誌「白楊」發行(隔月一回)	

D、年別行事(主要なものを)

- 一月 上旬 元旦舉式
- 二月 上旬 春節休業
- 中旬 紀元節舉式 萬壽節舉式
- 下旬 學生役員任命 入學式及始業式
- 三月 上旬 建國節(舉式) 陸軍記念日(講演) 祀 孔(休業)
- 下旬 春分(講話) 祀 關岳(講話)
- 四月 中旬 メートル記念講話 身體檢査開始
- 五月 體力測定開始



上旬	訪日宣詔記念日(學式)始業時變更	修學旅行
中旬	應用體力測定	奉天神社春祭(參拜)
下旬	海軍記念日(講話)	建國運動會
六月		
上旬	齋齒豫防(講話)	
中旬	時の記念日(講話)	夏期衛生講話
下旬	夏至(講話)	端午節(休業)
八月		
上旬	短縮授業開始	家庭訪問
下旬	第一學期終業式	夏期休業
九月		
上旬	第二學期始業式	
中旬	暑中休暇展覽會	學生役員任命
九月		
上旬	始業時變更	
中旬	奉天神社秋祭(參拜)	滿洲事變記念日(講話)
下旬	秋分(講話)	本校大運動會
十月		
上旬	全滿體育デー	蛔虫驅除
中旬	公開授業	孔誕(休業)
十一月		
上旬	明治節(學式)	音樂會
中旬		
下旬		

十二月  
下旬 スケート大會  
下旬 冬至講話  
奉天第一中學校  
學年末展覽會  
卒業式  
終業式  
冬期休業

大正八年南滿鐵道經營にて開校。  
昭和十二年十二月一日、治外法權の撤廢及南滿洲鐵道附屬地行政權の移讓に伴ひ校は大使館令第六號滿洲國在外指定學校指定規則に依る在外指定學校となる。

敷地及校舍	米坪	三四、三三三、七一	延	八、一八五、八八
校舍建	米坪	四、三二四、九二		
寄宿舎延	米坪	一、九九六、五八		
昭和三十四年度	人件費	一一四、九七一	物件費	三七、四六六
	生徒一人當經常費	一五八、七九(錢)		計 一五二、四三七(圓)
昭和十三年度	人件費	一二四、二二二	物件費	五〇、九一五
	生徒一人當經常費	一八四、五〇(錢)		計 一七五、一三七(圓)

學則摘要  
一、本校は男子に須要なる高等普通教育を爲し特に國民道德の教養に力むるを以て目的とす。  
一、修養年限五ヶ年とす。  
一、生徒の定員二十學級一千名とす。  
一、各學年に於ける學科課程及教授時數  
畧す(日本内地と殆同様、但支那語を必修科とし内地の祝祭日の外に萬壽節、建國記念日を加ふ)



職員現在

校長

教員 四八

生徒現在 九六〇 内譯(内地人九三〇)、半島人二五、臺灣一、關東州一、支那一、其他二)

訓育施設

振作會

生徒自治

校風振作

應援

生徒監

總務(一名)

學級役員(各級六名)——全生徒

學級擔任

副總務

週番

校內風紀取締

責任感の養成

正週番——全生徒

週番職員

總務(一名)

副週番(各學級一名宛)

學友團

校外自治

親睦

指導員

分團長

分團員

分團員

勤勞作業實施狀況

一、平時

分團長(全通學區を十六分團に分つ)

勤勞作業實施狀況

一、平時

(1) 一中魂昂揚日——全員——毎月一日

- ① 朝禮
- ② 國旗掲揚
- ③ 皇居遙拜
- ④ 學校長視閲
- ⑤ 分列式
- ⑥ 普通援業
- ⑦ 校舎、校庭美化

(2) 校庭美化日

- 第一學年——毎月十一、廿一日
- 第二學年——毎月十二、廿二日
- 第三學年——毎月十三、廿三日
- 第四學年——毎月十四、廿四日
- 第五學年——毎月十五、廿五日

二、夏季休暇

1、校内勤勞

2、公共事業奉仕

3、宿泊訓練

體育狀況

イ、課外運動

一、校友會運動班各部練習日割を左の如く定めて實施す。

曜日	部	名(上は三、四、五學年、下は一、二學年)	班練習日
月	庭球一	柔道下	一 班
火	庭球二	相撲下	二 班
水	庭球三	相撲上	職員運動員
木	庭球四	柔道	三 班
金	庭球五	相撲上	四 班
土	庭球	野球	

ロ、對班競技

- 第一學期 マラソン、籠球、庭球、排球、野球、相撲、インドアベース、射撃
- 第二學期 運動會、マラソン、蹴球、ア式ラ式、柔道、劍道、水泳
- 第三學期 スケート、アイスホッケー、柔道、劍道



ハ、氷滑段級表 畧す  
ニ、體力テスト表 畧す  
校友會組織

- 一、總務班 總務部、庶務、會計部  
二、學藝班 音樂部、繪畫部、辯論部、雜誌部、工作部、同好會(理化同好會、博物同好會)  
三、體育班 柔道部、劍道部、庭球部、蹴球部、競技部、バスケットバレー、スケート部(スピード部ホッケー部)  
四、軍教班 水泳部、軟球、野球部、機械體操部、相撲部  
喇叭部、射擊部、航空部  
生徒圖書館

一、本圖書館は本校父兄會の寄附行爲により學校之を經營す。  
一、經費は年額七百圓を父兄會より支辨す。  
一、昭和十三年度購入 書籍 五七三冊 月刊雜誌 一三種  
藏書種別

冊數	思想	文藝	地歴	科學	數學	法經	外國語	工作趣味	體育	國語	辭典	雜計
寄宿舍	三四〇	七九三	三七一	六四六	一五二	三八三	二一〇	八九	七〇九	一六四	二三一	四〇八八
學生學費	食費	接業料	舍費	旅行積立	校友會費	被服小使一切	特別舍費	計				
一ヶ月分	一四、五〇	五、〇〇	四、〇〇	一一、〇〇	一、〇〇	四、五〇	一、〇〇	三二、〇〇				
一ヶ年分	一五九、五〇	五五、〇〇	四四、〇〇	一二、〇〇	一一、〇〇	四九、五〇	一一、〇〇	三五二、〇〇				
(十一ヶ月)												

學則等は日本内地と同様なれば畧す。

天津日本青年學校

普通科二年、本科五年  
普通科の授業時間男子每週三十五時間  
女子每週三十六時間  
本科每週十九時間

休日 一、祝日、大祭日、二、日曜日、三、夏季休業(六月二十五日—八月二十日)、四、冬季休業(十二月廿五日—翌年一月五日)、五、春季休業(三月廿六日—三月卅一日)  
但女子部は普通科のみにて本科無し。

當校訓練方針

所謂植民地氣分なるものは人心の弛緩背離甚だしく其の影響青年の心身に及ぼす處尠かならず、從つて生徒の大部分は無自覺なる因襲的退嬰氣分横溢し事に當るに靄氣を缺く、之を矯正せんがため常に鍛鍊を旨とし質實剛健の氣風を振作し以て海外生活の改善者を養成せんとす。

- 校訓 獨立自尊  
日訓 希望に起き、歡喜に働き、感謝に眠る。  
生徒五訓  
一、一切の恩に感謝し進んで犠牲の人たる可し。  
二、勤勞體驗を重んじ實行の人たる可し。  
三、海外一線の先達として青年大衆の範たる可し。  
四、自學獨創研究により自己を充實す可し。  
五、質實剛健以て身心を鍛鍊すべし。

校歌

(一) 亞細亞の眞中天津に 皇道宣布第一線  
君の馬前に鴻毛の 死を捧げたる丹顏となり



(一) 瑞穂の國の靈を  
心の糧を失へる

今こそ宣らん我等青年  
羊の如き世の人の

(二) 物と相に流れ行く  
獨立自尊の靈を

さ中に立てる丹類なり  
楯に進まん我等青年

(三) 白河の流れ濁るとも  
などや變る日の本の

渤海灣は荒るゝとも  
學びの校の丹類なり

大和の國の靈を

東西に布かん我等青年

### 訓練上施設

朝會 毎朝の朝會は嚴格なる規律禮儀に始まり全生徒をして左の如く高聲宣誓をなさしむ。  
希望に起き、歡喜に働き、感謝に眠ります。

右の齊唱後生徒當番をして昨日の日誌、學習、行爲、清潔、整頓、運動等につき朗讀反省せしめる。  
神社參拜 大祭、祝日及毎月第一日曜に天津神社に參拜せしめ尙毎月一日、十五日には各個に自由參拜せしむ。  
勤勞奉仕 神社、墓地の清掃、租界の美化作業を行はしめ勤勞奉仕の精神を涵養する。  
生徒自治會 生徒相互間の意志を疏通せしめ自治的訓練の向上を期すると共に風紀の振作、校風の發揚を圖る。  
會食 國民的記念日には記念日の意義を徹底するため講話を行ふ外全職員生徒會食を行ふ。  
映畫會、講演會 生徒の情操陶冶及訓育上有益なる映畫講演等は隨時見學聽講せしむ。

### 體育施設

體育日 一週一回晴天の日土曜日第六時限に長距離徒歩の團體競技を實施す、職員も之に参加す。  
放課後運動 體育日以外に放課後全生徒各種運動を運動場に於て實施す。  
運動會 秋季に行ふ。  
遠足 春季、夏季、秋季に行ふ。  
臨海訓練 毎年約一週間普通科生に對し、團體訓練と共に健康増進を圖る。

寒稽古 耐寒行軍、毎年嚴冬の侯男子部全員に課す。

身體検査 毎年四月之を行ふ。疾患あるものは根治に努め、場合により父兄と協議す。  
豫防注射 腸チフス、赤痢、コレラ等適時之を行ふ。

### 學級擔任の任務

- 一、學級擔任は學校長の命を受け副主任及生徒監と協力し擔任學級經營の責を負ふ。
- 二、學級擔任は親切、熱心、濃厚、公平、威嚴、雅量を以て生徒の指導に當る。
- 三、學級擔任は生徒の個性を速かに理解しその善導方策案を考究實施す。
- 四、學級擔任は總ての機會を善導の機會たらしむる事に努力し機を逸せず指導を行ふ。

### 學科擔任の任務

- 一、學科目擔任は學校長の命を受け、擔當學科目の指導をなし學級擔任と常に連絡を圖り教授訓練の向上を圖る。
- 二、學科擔任は學年始め擔當學科目の指導案を學校長に提出する事。

### 研究部

各科に亘り職員生徒を以て研究部を構成し適材適所各自の素質天分を遺憾なく發揮せしめ其の結果は隨時之を發表せしめ教育施設の改善にも資せしめんとす。

### 職員會

- 一、月例職員會 毎月末開催
- 二、臨時職員會
- 三、指導員會 毎月第三日曜日、教練指導上の反省、打合

### 學校行事

- 四月 十日 始業式、入學式  
同 十一日 天津神社例祭(奉式、訓話)  
同上 旬 定期身體検査施行



同 二十七日	結核豫防デー實施
同 二十九日	天長節、舉式
同 三十日	學校經營案、學級經營案、學科目指導案提出、學校要覽作製
五月 五日	端午の節句(全生徒會食、講話)
同上 旬	遠足
同 二十七日	海軍記念日(記念講演會開催)
六月 四日	齋齋豫防デーの實施
同 十日	時の記念日實施
同 中 旬	授業時間短縮、生徒研究發表會開催
同 二十四日	終業式舉行
同 二十五日	本日より夏期休業實施
同 下 旬	備品整理、諸帳簿整理檢閲
七月上 旬	臨海教育實施
八月廿一日	第二學期始業式
同 下 旬	視察報告會開催
同 十一日	天津神社例祭奉仕
同 十三日	乃木祭訓話及記念談話會開催
十月上 旬	運動會
同 中 旬	遠足
同 下 旬	招魂祭舉式訓話
同 三十日	教育記念日、舉式訓話
十一月三日	明治節舉式、體育デー

同 十日	國民精神作興週間實施
十二月 中旬	備品及諸帳簿整理檢閲
同 廿四日	終業式
一月 一日	新年舉式
同 六日	第三學期始業式施行
同上 旬	書初展覽會
二月 十一日	紀元節舉式、卒業記念撮影
三月 六日	地久節訓話
同 中 旬	學校經營及學級經營反省會、備品諸帳簿整理檢閲
同 二十五日	修卒業式舉行
同 下 旬	學年末事務整理、新學年整理

職員 日直  
 專任教員の順番に一名づ、勤務せしめ生徒日直並使丁を指導督勵して日課の傳達、校舎内外の清潔整頓、校規の振作、校風の發揚を圖る。

生徒 日直  
 學校日直 最上級學年一名づ、順番に勤務させ日直教員を補佐して學校全般の清潔整頓、風規の振作を圖る。  
 學級日直 各學級とも二名づ、順番に勤務せしめ擔任教員、日直教員を補佐して學級の清潔、整頓、級風の振作に努めさせる。

級長、副級長  
 各學級とも各一名宛任命し學級擔任教員を補佐し學級日直と協力して級風の振作を圖る。

學校事務分擔  
 總務係、教務係、會計係、統計係、庶務係、訓練係、備品係、接待係、衛生係



各係分擔事項、記載を要す。

### 八、北支本邦人教育施設概説

北支各領事館管下に於ける本邦人子弟教育施設は現在小學校四十一校、青年學校三校、中等學校十一校で二三の例外を除くの外凡て各地居留民團及居留民會の設立經營に係るものである。

事變後北支在留邦人の急激なる増加に伴ふ子弟收容の學校施設に付ては北京大使館及各地領事館に於て特に之が企劃に意を用ひ民團及民會を指導督勵し着々之が擴充を期しつゝある狀況である。

昨年度新設したるは小學校にありて豐臺、保定、德州、石家莊、太原、宣化、大同、厚和、集寧、包頭及北京西城(分校)の十一校、中等學校にありては青島學院、高女一校であつて本年度に入り小學校に在りては北京に分校、塘沽を各獨立校とした外天津第三、陽品、榆次、新鄉、彰德、開封、徐州の七校を開設した、青年學校にありては北京一校、中等學校にありては北京一校、中等學校にありては北京中學、同高女、天津中學、濟南高女の四校を開設して居る。年度内に猶小學校、青年學校十校ばかり開設の豫定であるとの事であつた。左に事變前と本年六月末現在との比較を示す

事變前 昭和十四年六月末

小 學 校	學級數	一四九	三七〇
	兒童數	五、四〇一	一四、四三九
中 等 學 校	學級數	五七	八五
	生徒數	二、三七八	三、六一一
青 年 學 校	學級數	九	一八
	生徒數	一六七	六一七

### 九、視察後の感想

今回の視察は時日の割合に成るべく汎き區域に亘りて概觀的認識を得んと口論みたるため便宜の交通機關は出來得るだけ之を利用して、所謂遊覽パスは至る所之を利用して大いに得る所があつた。但遊覽と云ふ名稱が眞剣に或は視察し、或は巡拜せんとする我等の氣分に添はざりしも事實は其のコースに於て、將た案内ぶりに於て全く我等の希望に即したるものであつた。案内に當れる人達は何れも眞率なる態度にて熱誠溢る、懇篤なる説明をして舉げた。殊に各地に於ける戰跡巡拜に當りては日清、日露の戰役以來今次事變に引き續く約五十年間に亘る我皇軍將兵を始め、官民志士幾千百の尊き血潮に浸潤せる靈跡地を眼前にして其の難戰苦闘の間に輝はれし忠勇義烈の美譚を詳細に説明せらるゝとき誰人も襟を正し、熱淚の滂沱たるを禁ずる能はず、忠靈塔又は其の墓前に捧ぐる感謝の默禱は意志を超越し、唯涙心より強く自然に備されて來るのであつた。此の感激は奉天に於て、撫順に於て、新京に於て、ハルビンに於て、北京に於て、大連に於て、更に旅順に於て其の最高潮に達するを覺えた。數十年前より露國の東方政策の如何に雄大にして如何に全力を盡したものであつたか、當時に於ける彼が攻防の備への如何に完壁を期したるものであつたか、而して其の兵力如何に強大なものであつたかを知るには是非とも以上のコースを實地に見ねば想像し能はざる所である。今次事變の真相は日清、日露戰役以來の過程を知らずして知る事は出來ない。而して之を知る爲めには記録に依る歴史談のみにては到底其の眞感は起らない。實にや百聞は一見に如かずである。我等の此の短日時の旅行に於て皇國の大陸に於ける大使命を如何に感得した様な氣分に満たされた。今や皇國の勢威隆々として東亞新秩序の建設に邁進して居るのであるが、其の提携して進まんとする支那、滿洲の國民性と我國民性との間に相違の大なるものあるを思ひ、歐米列國の動向より、殊に露國の將來を思ふとき我等は寸毫の油斷をも許さざるものあるを痛感せざるを得ない。我等は智識に於て、體力に於て、徳義に於て、生活力に於て、あらゆる方面に於て是非とも強くならねばならぬ。而して東亞何れの國民よりも心服せらるゝだけの人位を高めねばならぬ。換言すれば國民教育に向つて最大の馬力をかけねばならぬ時である。其の必須要素として大陸を正しく認識することに努めねばならぬ。目下青年指導の任にあるものは是非とも東亞の實情を如實に知りて彼等を扶掖誘導するだけの實力あり襟度ある大陸的人物を養成することに励めねばならぬ。それには是非とも一度大陸を視察大觀する必要がある。



卷 末 に

昭和十四年度に於ける學事觀察は内地は東京神奈川、大阪、鹿児島  
の三方面、外地は鮮滿北支方面、併せて四回であつた。各方面とも夫  
々報告書が提出されてゐるので、全部印刷して配付するのが最初の豫  
定であつたが、何分にも時節柄紙の配給少く、印刷費も騰貴したので  
遺憾乍ら本書のみとしたことは大方の御宥恕をお願ひする。

★

この報告書は菊池團長自ら執筆されたもので、三百字詰の原稿用紙  
に、毛筆を以て克明に書かれて些の亂れもなく、百六十七枚に亘るこ  
の種のものとしては實に滑溜なものである。而して首尾完結し、記述  
詳細、交ふるに先生獨特の觀察眼に依るものがある。北京の大使館及  
興亞院に於ける教育事情聴取記の如き、滿洲教育事情の説述如き、我  
が植民地教育に資する所あるは勿論、我が國一般教育界に對する頂門  
の一針である。滿洲に於ける宗教方面の敘述は、さすがに佛教に就い  
ての著書を有せらるゝ先生であると肯かしめる。日清、日露、支那事  
變等の各戦蹟に於ける感想は國民的義憤に燃えしめるものがある。

★

斯くの如き極大の筆も、校正の粗漏なる、或はその碧を完うし得な  
かつたのでは無いかと謝する次第である。(係)

編輯發行人  
兼印刷人

梶

野

武

名古屋市中區南久屋町三丁目

名古屋印刷株式會社

印刷所

昭和十五年五月二十日 印刷

昭和十五年五月三十日 發行

名古屋市西區南外堀町六ノ一

愛知縣學務部社會教育課内

發行所

愛知縣私立青年學校協會

403  
82



終

